



一日も早い戦火の終息を

より豊かな未来の食のために —いま、改めて考える私たちの食と農—



第2回 令和の百姓一揆（東京・青山公園、2026.3/29）

ウェブサイト

「フード・マイレージ資料室」

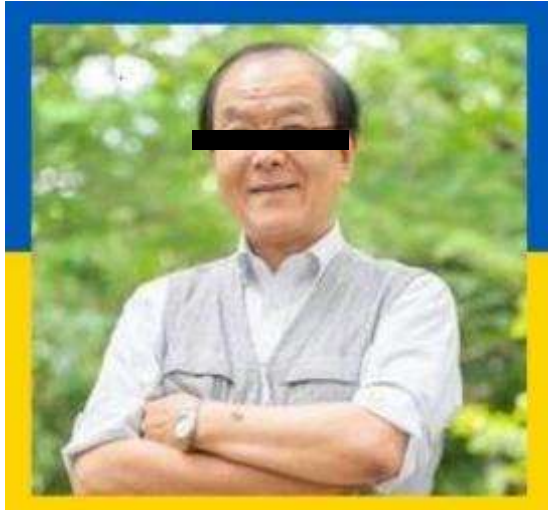
主宰 中田哲也

e-mail; [tetsuya.nakata913\(アットマーク\)gmail.com](mailto:tetsuya.nakata913@gmail.com)



本資料は後日、個人のウェブサイトに掲載します。
また、意見等は、すべて中田の個人的なものです。

ご挨拶と自己紹介



1960年 徳島市生まれ

1982年3月 岡山大学農学部卒業、2012年 千葉大学大学院園芸学研究科修了
博士(農学)

1982年4月 農林水産省入省

2001年4月～3年7月の間、農林水産政策研究所において篠原孝所長
(前・衆院議員)の指導の下、フード・マイレージに関する研究に従事

その後、九州農政局(熊本市)、北陸農政局(金沢市)、統計部数理官等を経て2020年3月 定年退職。2025年3月、再任用終了

個人的なライフワークとしてフード・マイレージの普及等に取り組み
ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」主宰

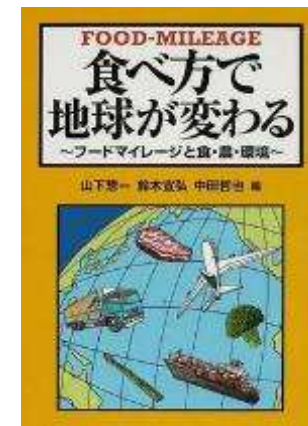
(ブログ、メルマガなど) <http://food-mileage.jp>

著書 『フード・マイレージーあなたの食が地球を変える』

(2018(新版)、日本評論社)

『食べ方で地球が変わる フードマイレージと食・農・環境』

(山下惣一氏、鈴木宣弘氏との共著、2007.7、創森社) 等



東京・東村山市在住

自宅近くの市民農園、体験農園で農作業の真似事

本日の話の内容

【第1部】改めて、フード・マイレージについて

- 大量・長距離の食料輸送（輸入）は、**地球環境に大きな負荷**
- **地産地消の効果**（ケーススタディ）
- 日々の食生活は**地球環境**ともつながっている
（食事バランスガイド、ワン・ヘルス、プラネタリー・ヘルス・ダイエット）
- フード・マイレージの**現在的意義**：経済安全保障、エネルギー危機

【第2部】トピック的に

- **統計の見方、使い方**（ギョーザ、農家の若返り、規模拡大の進展、「時給10円」）
- **令和の百姓一揆**
- 「食と農の間の距離」を縮めるために—**食と農の未来フォーラム**の開催等—
（希望：一方的な話ではなく、意見交換を中心に）

改めて、フード・マイレージについて

- イギリスの“Food Miles”運動(1990年代～)
: なるべく近くで取れたものを食べることにより、食料輸送に伴う環境負荷を低減しようという市民運動。
(注: 現在は輸送距離短縮にとどまらない運動(エシカル等)に進化)

- 考え方、計算方法は単純、簡単
: 食料の輸送量 × 輸送距離
単位: t・km(トン・キロメートル)

マイレージ: 単なる距離(マイルズ)ではなく、輸送されてきた経路を含むニュアンス。
(篠原所長(当時)の造語)

- 特色
食料の供給構造を、物量とその輸送距離により把握
 - 食の安定供給、安全性の確保(トレーサビリティ)
 - 「食」と「農」の間の距離感の把握
 - 食料の輸送が地球環境に与える負荷の把握

cf. 食料自給率:
距離の概念を含まず



Food miles - Still on the road to ruin?

An assessment of the debate over the unnecessary transport of food, five years on from the food miles report.



sustain(1999)

輸入食料のフード・マイレージの計測

○ 概念、計算方法

輸入相手国(すべての国・地域)別の輸入量に輸送距離を掛け合わせ、累積

○ 対象国及び使用したデータ

対象国 : 日本、韓国、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ

対象年次 : 2001年(暦年)

用いた統計(輸入量): 日本 財務省「貿易統計」

諸外国 Global Trade Information Service社
“World Trade Atlas®”(CD-rom版)

○ 「食料」の範囲の特定

HS条約品目表4桁ベース(項)

主に食料として消費されていると考えられる品目(観賞魚? 塩?)

直接、人の口には入らない飼料、油糧種子も含む。

「食料」の範囲

| 品目分類 (2桁ベース) | 品名 | 「食料」の範囲(4桁ベース) |
|-----------------|-----------------|----------------|
| 第1類 | 生きている動物 | 一部(馬、犬等を除く。) |
| 2 | 肉及び食用のくず肉 | 全品目 |
| 3 | 魚並びに甲殻類、軟体動物等 | 全品目 |
| 4 | 酪農品、鳥卵、天然はちみつ等 | 全品目 |
| 7 | 食用の野菜、根及び塊茎 | 全品目 |
| 8 | 食用の果実及びナット等 | 全品目 |
| 9 | コーヒー、茶、マテ及び香辛料 | 全品目 |
| 10 | 穀類 | 全品目 |
| 11 | 穀粉、加工穀物、麦芽、でん粉等 | 全品目 |
| 12 | 採油用の種及び果実等 | 全品目 |
| 13 | 樹脂その他の植物性の液汁等 | 一部(植物エキス等のみ。) |
| 15 | 動物性又は植物性の油脂 | 一部(グリセリン等を除く。) |
| 16 | 肉、魚又は甲殻類等の調製品 | 全品目 |
| 17 | 糖類及び砂糖菓子 | 全品目 |
| 18 | ココア及びその調製品 | 全品目 |
| 19 | 穀類調製品及びベーカリー製品等 | 全品目 |
| 20 | 野菜、果実等調製品 | 全品目 |
| 21 | 各種の調製食料品 | 全品目 |
| 22 | 飲料、アルコール及び食酢 | 全品目 |
| 23 | 食品工業の残留物及び調製飼料等 | 全品目 |
| 24 | たばこ及び製造たばこ代用品 | 全品目 |
| 33 | 精油、レジノイド、調製香料等 | 一部(精油等のみ。) |
| 35 | たんぱく系物質、変性でん粉等 | 一部(カゼイン等のみ。) |

← (観賞魚を含む。)

← (飼料穀物を含む。)

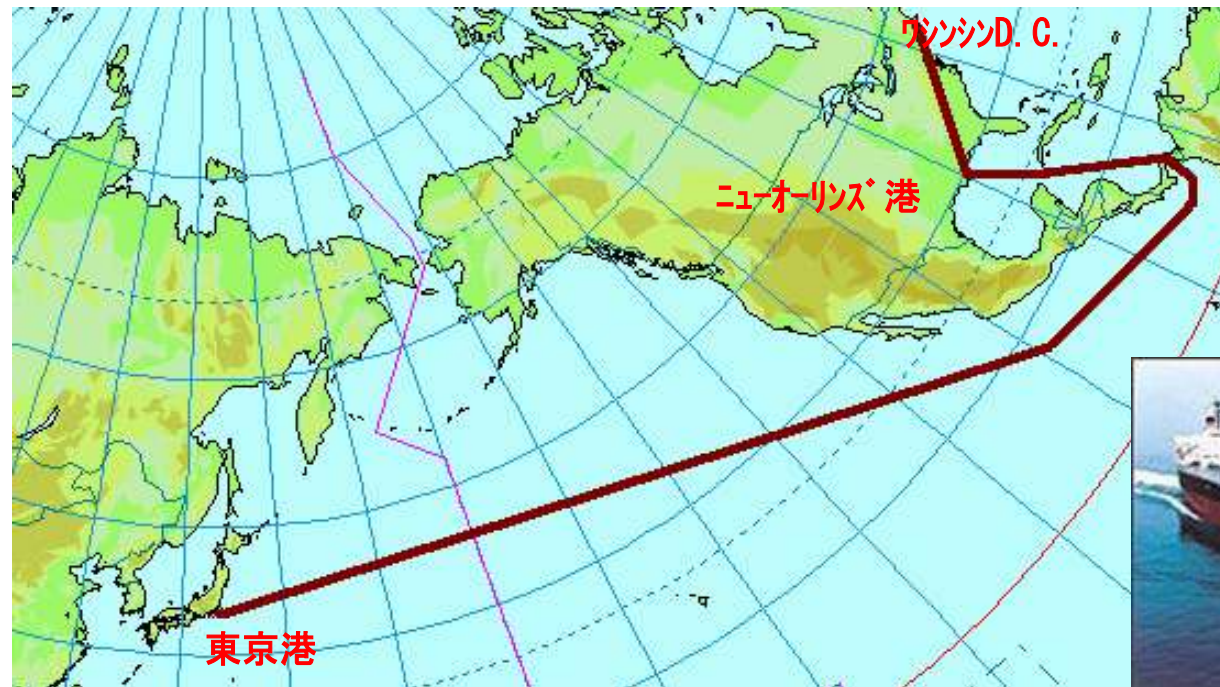
← (油糧種子)

〔 輸入塩は
工業用途の方が
多いため範囲外 〕

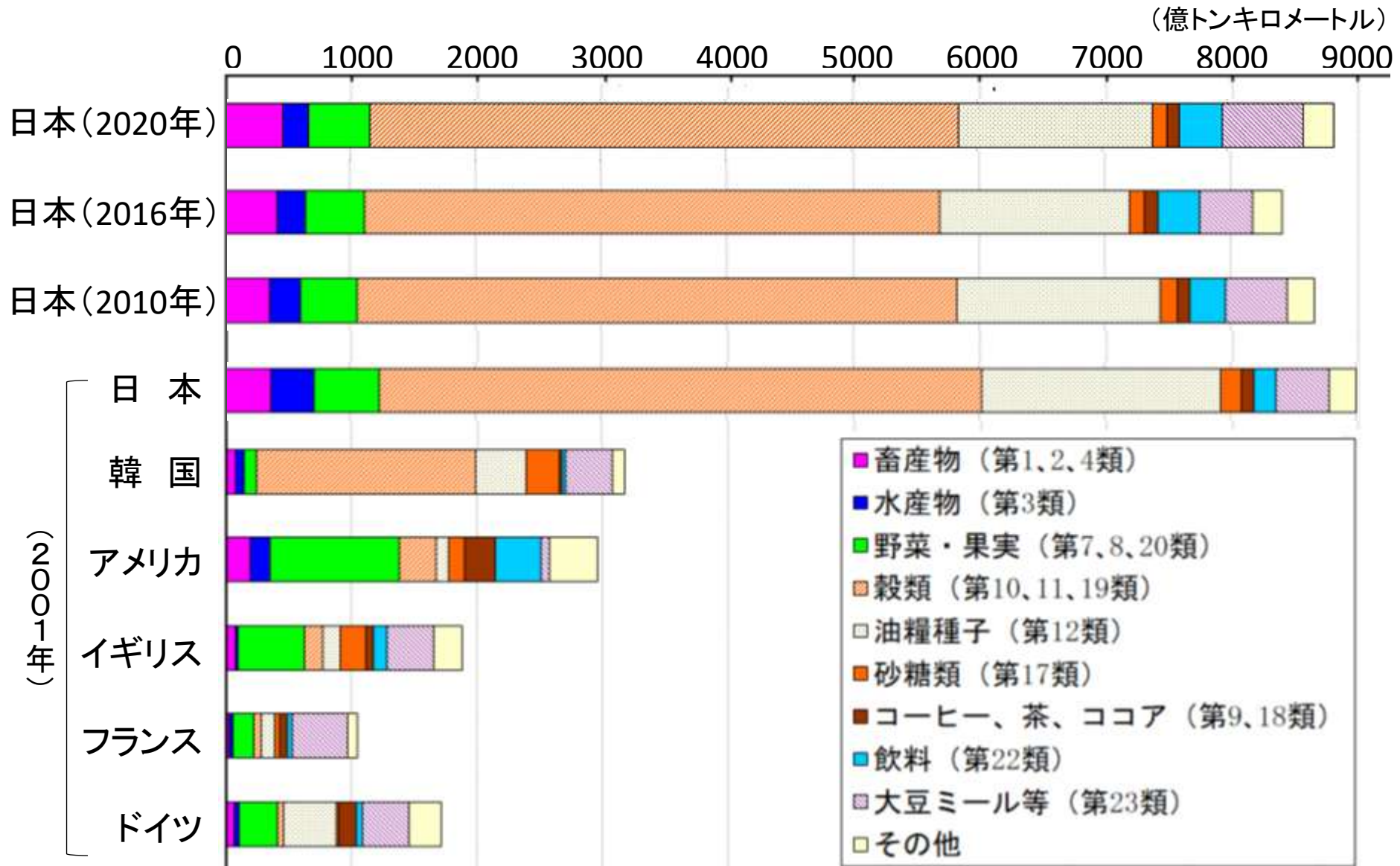
輸入食料のフード・マイレージの計測

○ 輸送距離の計測（仮定）

- ・輸入国：全て首都近郊の港に水揚げ
- ・輸出港～輸入港：海上輸送（途中で他の港湾には寄港せず）
- ・輸出国：代表港から輸出
- ・輸出国内の輸送（産地～輸出港）：トラックと内航海運が半々
当該国の首都～輸出港との間の直線距離
（ただし、同一大陸内の陸続きの国からの輸入は首都間の直線距離）

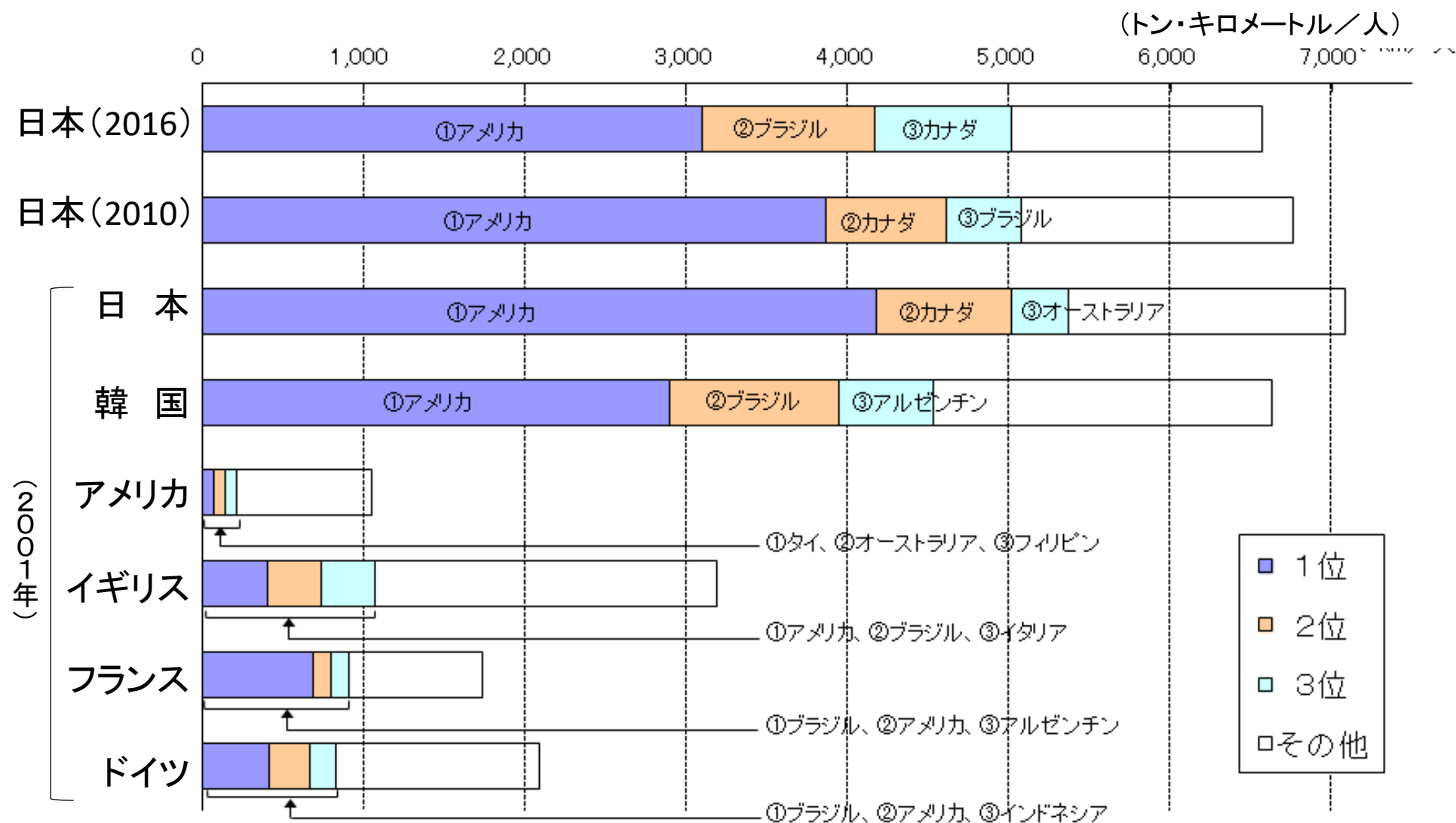


輸入食料のフード・マイレージの比較（総量、品目別）



注: おそらく世界最大は中国 (計算していない)。

輸入食料のフード・マイレージの比較（1人当たり、輸入相手国別）



輸入食料の大量・長距離輸送により排出される二酸化炭素の量

16.9 百万t (2001年)



一世帯当たり年間 約380kg

家庭でできる省エネ(*)の例

年間削減量

| | | |
|--------------------|---------|--------|
| 冷房を1°C高く暖房を1°C低く設定 | : 約41kg | →約9年分 |
| シャワーを1日1分間短縮する | : 約29kg | →約13年分 |
| 冷蔵庫に詰め込み過ぎない | : 約21kg | →約18年分 |
| 1日1時間テレビ利用を減らす | : 約12kg | →約32年分 |

(*) 資源エネルギー庁「省エネポータルサイト・家庭でできる省エネ」

https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/



地産地消（スローフード、ロハス）

地域の農林水産物の利用を促進することによる国産の農林水産物の消費を拡大する
地産地消等の取組（「六次産業化・地産地消法」、2010年）

「地産地消」のメリット

消費者には、① **新鮮で安価**な食材の入手、② 「顔の見える関係」 — **安心感**

生産者には、① **現金収入**（**少量多品種**生産）、② **地域の活性化**

さらに環境には、「**輸送に伴う環境負荷（二酸化炭素排出量）を減らす**」面でも有効



東京・東村山市（中田撮影、20210.6/15）

フード・マイレージ指標を用いた 地産地消の効果測定（ケーススタディ）

たまねぎ (2kg)

消費地：日本農業新聞本社ビル

生産地：[ケース1] **都内（練馬区大泉）産**

[ケース2] **北海道（北見）産**

[ケース3] **輸入（中国産）** を比較 11

[ケース1] 都内（練馬区大泉）産の場合 24.6 km



大泉 風のがっこう
(中田撮影、2021. 11/23)



写真：(株)日本農業新聞HPより

産地（練馬区大泉）→ 消費地（日本農業新聞本社ビル）

[ケース2] 北海道（北見）産の場合 1,558 km



写真：ホクレンHPより

https://www.hokuren.or.jp/_greenweb/?post_type=season_booklet_page&p=13333



写真：農畜産業振興事業団HPより



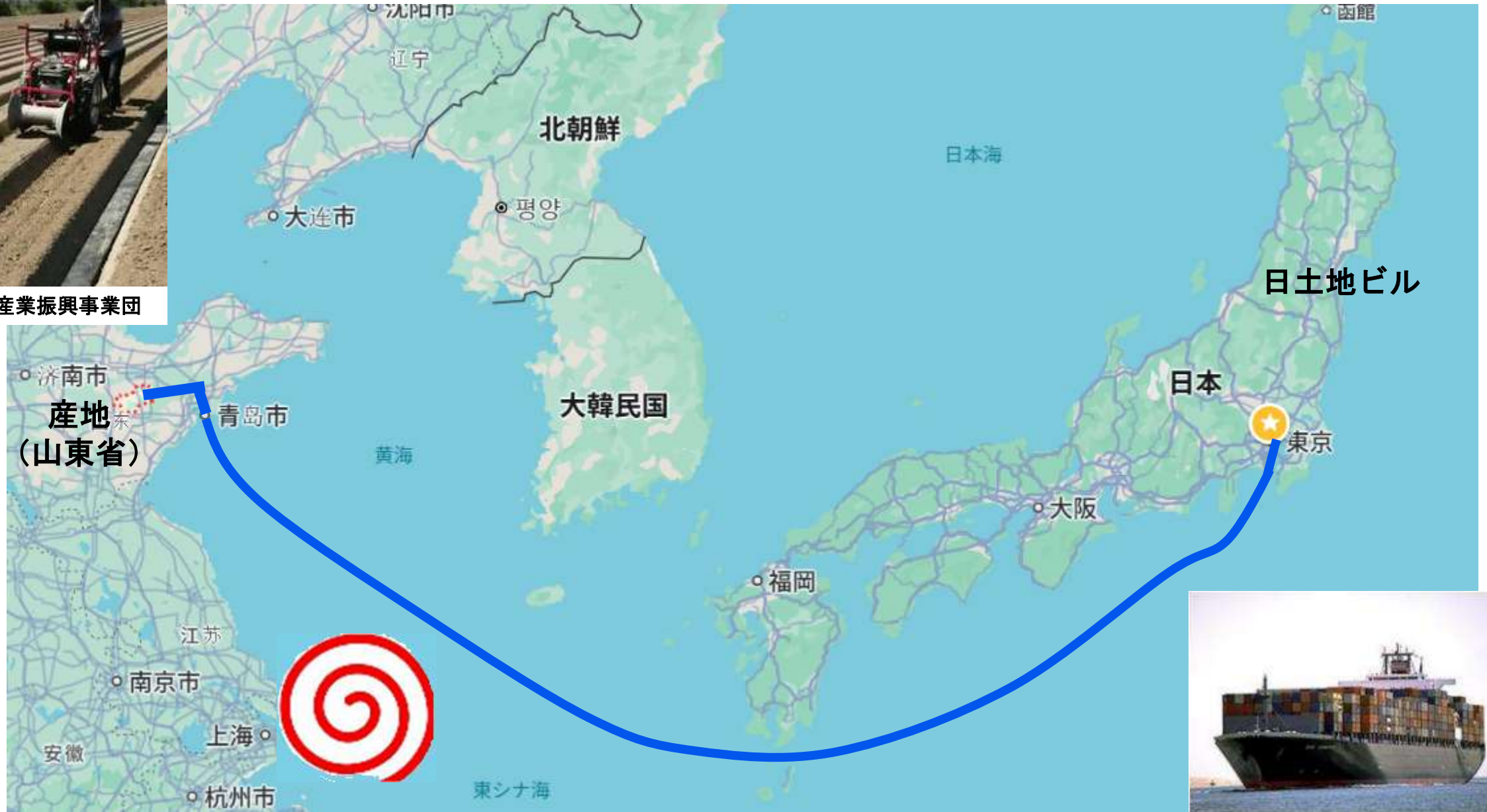
写真：農林水産省HPより
<https://www.maff.go.jp/hokkaido/kitami/photorepo/gennba/061212onion.html>

産地（北海道・北見） → 東京貨物ターミナル → 消費地（日本農業新聞本社ビル） 13

[ケース3] 中国産（輸入品）の場合 2,763 km



写真: 農畜産業振興事業団



産地 (山東省) → 輸出港 (青島) → 輸入港 (東京) → 消費地 (日土地ビル)



たまねぎのフード・マイレージ等の試算(計算方法)

輸送量 : 2 kg

輸送距離 : ケース 1 東京・練馬区産 24.6 km

ケース 2 北海道・北見産 1,558 km

ケース 3 中国産(輸入) 2,763 km

(フード・マイレージ等の計算 : 練馬区産の例)

フード・マイレージ : 49 kg・km

[計算式] $49 \text{ kg} \cdot \text{km} = 2 \text{ kg} \times 24.6 \text{ km}$

二酸化炭素排出量 : 11g (輸送手段:トラック)

[計算式] $10.8 \text{ g} = 49 \text{ kg} \cdot \text{km} \times 0.22 \text{ g} / \text{kg} \cdot \text{km}$ (トラックのCO2排出係数)

二酸化炭素排出係数 (1 kg の貨物を 1 km 輸送した際に排出される CO2 の量)

営業用貨物車(トラック) 0.22 g / kg・km

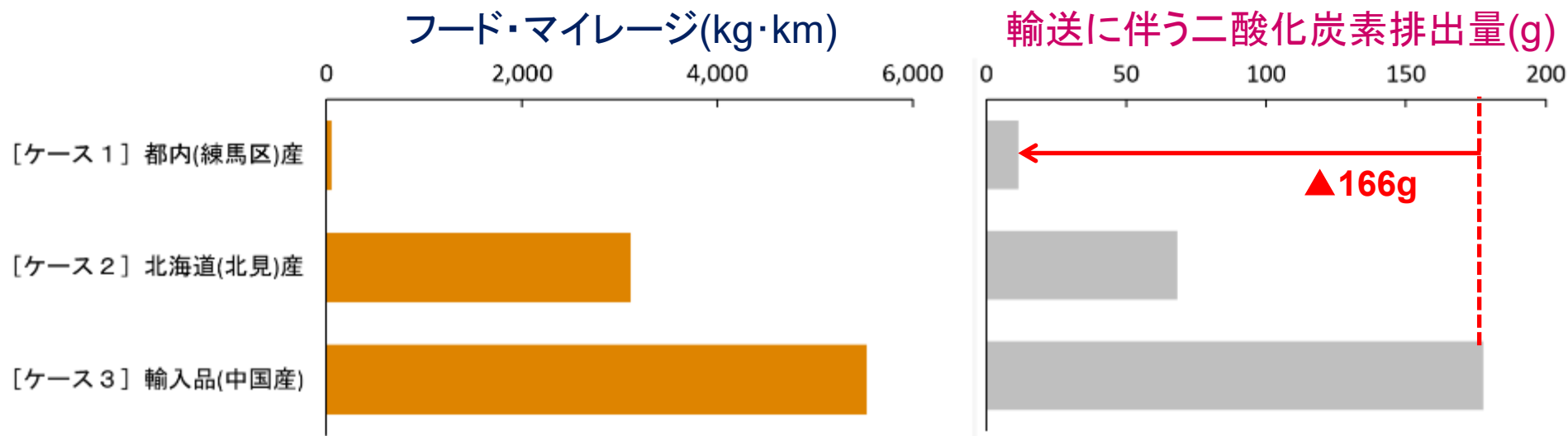
鉄道 0.02 g / kg・km

外航船舶(バルカー) 0.01 g / kg・km

外航船舶(コンテナ) 0.02 g / kg・km

ケーススタディ：たまねぎのフード・マイルージ等（試算結果）

| | 輸送量 | 輸送距離 | フード・マイルージ | 二酸化炭素排出量 |
|-----------------|---------|-----------|-------------|----------|
| [ケース1] 都内(練馬区)産 | 2 kg | 24.6 km | 49 kg・km | 11 g |
| [ケース2] 北海道(北見)産 | 2 kg | 1,558 km | 3,116 kg・km | 69 g |
| [ケース3] 輸入品(中国産) | 2 kg | 2,763 km | 5,526 kg・km | 177 g |
| (倍率：都内産＝1) | | | | |
| [ケース1] 都内(練馬区)産 | 1.0 (倍) | 1.0 (倍) | 1.0 (倍) | 1.0 (倍) |
| [ケース2] 北海道(北見)産 | 1.0 (倍) | 63.3 (倍) | 63.3 (倍) | 6.5 (倍) |
| [ケース3] 輸入品(中国産) | 1.0 (倍) | 112.3 (倍) | 112.3 (倍) | 16.7 (倍) |



地元の食材を使うことで、輸送に伴う二酸化炭素排出量を **116g 削減**

cf. (1世帯1日当たり) 冷暖房の温度設定(1℃): ▲112g テレビを1時間短く: ▲33g

加賀・能登の食材を使った「ネオ和食」の例

注：北陸農政局「伝統野菜サミット」（2009.2）資料、料理監修：つぐまたかこ氏（フードライター、金沢市在住）

源助大根のふろふき
（源助大根）

せりご飯
（せり、ごはん）



しいたけと春菊の味噌汁
（しいたけ、金沢春菊）

能登豚の野菜巻き
（豚肉、能登白ねぎ、
蓮根、にんじん）

以下の3つのケースについてフード・マイレージ等を計測

ケース1 加賀野菜など地元産食材を使用した場合（地産地消）

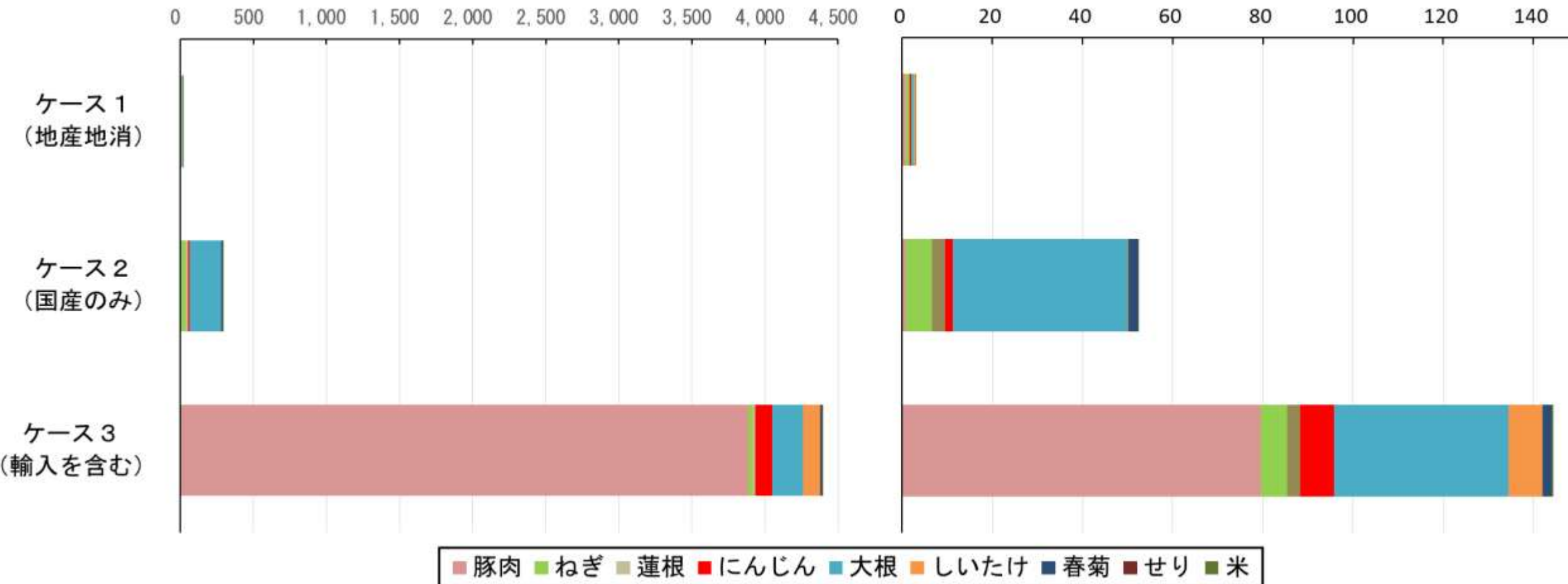
ケース2 仮に市場で国産食材を選んで調達した場合（国産のみ）

ケース3 仮に市場で輸入食材も含め調達した場合（輸入品を含む）

フード・マイレージと二酸化炭素排出量の比較（ネオ和食）

フード・マイレージ

輸送に伴う二酸化炭素排出量



平成22年度 食料・農業・農村白書 トピックス (3) 環境保全に向けた食料分野での取組

https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12175499/www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h22_h/trend/part1/topics/t3_01.html

地産地消は地球を救う？ーフード・マイレージの限界

1 輸送機関による環境負荷の違い

二酸化炭素排出係数

(出典：国土交通省、シップ・アンドオーシャン財団(現海洋政策研究所))

| | | |
|-------------|-----|--------------|
| 営業用普通トラック | 216 | g-CO2 / t・km |
| 鉄道 | 21 | |
| 外航船舶 (バルカー) | 10 | |
| (コンテナ) | 21 | |

➡ モーダルシフトの重要性



出典：国土交通省HP

2 フード・マイレージは輸送に限定された指標

生産や加工、消費、廃棄面での環境負荷は考慮せず。

： 粗放的に生産された食品を船で輸入すれば、国内で集約的に生産するより、トータルの環境負荷は小さくなる可能性。

➡ LCA、カーボンフットプリント

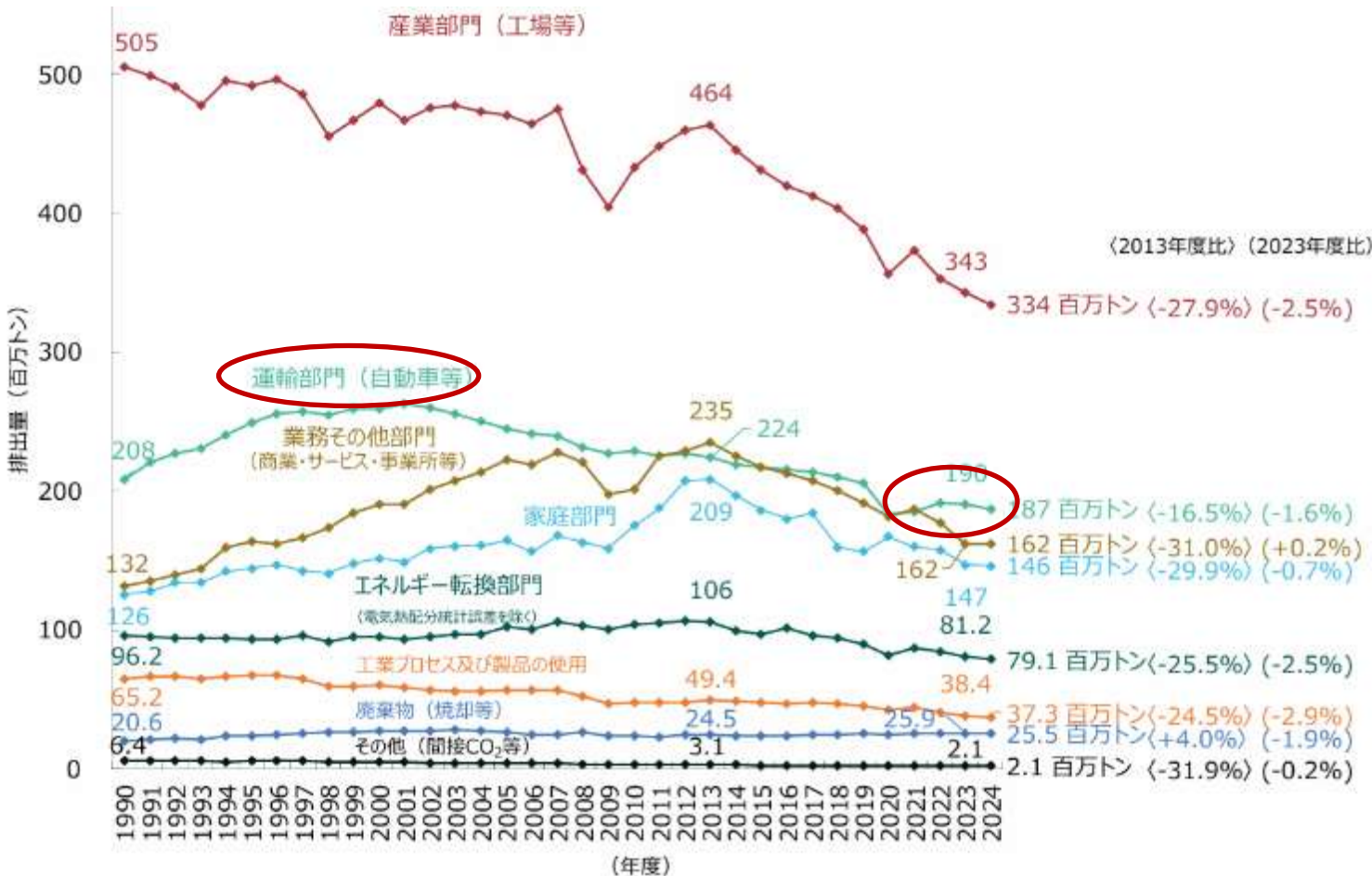


出典：CFJ HP

部門別にみた温室効果ガスの排出量の推移

2024年度：約9億9,400万トン→2013年以来最低値
 (前年度比 2.5%減、2013年度比 28.7%減少)
 ➤ 製造業の生産量 等

運輸部門 (自動車等)：約1億8,700万トン
 (前年度比 1.6%減、2013年度比 16.5%減)



出典：環境省「2024年度の我が国の温室効果ガス排出・吸収量について」
 (2026. 4/14プレスリリース)

温暖化ガス排出、22年度2.5%減

EV普及遅れ響く

車・鉄道輸送は増加

- EV普及の遅れ、ガソリン補助金
- 運輸部門のCO2削減は世界共通の課題

私たちにできること・・・

「食事バランスガイド」を参考に、「日本型食生活」の実践を。

ご飯や野菜をしっかり食べて脂質を控えめにして、
さらに地産地消や旬産旬消を心がけることで・・・

メリット1 栄養バランスが改善し健康な体に

生活習慣病やメタボリック・シンドロームが予防できます。

メリット2 結果として食料自給率の向上に

国内で自給できる米や野菜の消費が増え、輸入に
依存している飼料穀物や大豆等の消費が減ります。

メリット3 地球環境への負荷も軽減

大量の輸入食料を長距離輸送する過程で発生するCO2を削減できます。
日々の食生活が地球環境とつながっていることに気付くヒントに

さらに、旬産旬消、なるべく食べ残しをしない等の行動変容へ。

EAT-Lancet委員会 提唱「**プラネタリー・ヘルス・ダイエット** (地球にとって健康な食事)」(2019)

[https://www.thelancet.com/journals/lanplh/article/PIIS2542-5196\(20\)30163-7/fulltext#back-bib4](https://www.thelancet.com/journals/lanplh/article/PIIS2542-5196(20)30163-7/fulltext#back-bib4)



食事バランスガイド
(厚労省・農水省、2005)

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyou-syokuji.html>



統計の見方、使い方(1) 「ギョーザ日本一」？

朝日新聞 2026年2月6日付け

高市政権 イラン攻撃 速報 朝刊 夕刊

トップ 社会 経済 政治 国際 スポーツ オピニオン IT・科学 文化

令和8年2月6日

報道発表

浜松市 産業部 観光・シティプロモーション課
シティプロモーション担当

TEL: 053-457-2293



総務省家計調査「ぎょうざ」部門

浜松市の餃子購入額が3年連続日本一

ギョーザ日本一、浜松が3連覇 シ添えが定番

2026年2月6日 12時00分 有料記事



浜松のギョーザは、ゆでモヤシが添えられるのが定番だ=浜松市中央区、青田秀樹撮影



浜松市の1世帯あたりのギョーザ購入額は2025年、4046円で3年連続の全国トップだった。「ギョーザの街」を競いあう宇都宮市(3575円)が宮崎市(3418円)をかわして2位に浮上した。前年比20円減ながら浜松が首位の座を守った。

総務省が6日発表した家計調査を浜松市が集計した。外食や冷凍品は含まれておらず、持ち帰る焼きギョーザや生ギョーザの購入が対象だ。

東京都区部と道府県庁所在地、政令指定市の計52都市のうち浜松市は、指定市になった翌年の08年からの18年間でトップが10度。当初は宇都宮市と競いあっていたが、近年は宮崎市が加わる三つどもえになっている。

総務省家計調査(*1)における毎年1~12月の餃子購入額について、本日、2025年12月度の総務省家計調査が公表されました。

その結果、「ぎょうざ(*2)」品目において浜松市の年間支出は4,046円で1位となりました。

餃子購入額は、2010年まで宇都宮市が15年連続1位でしたが、餃子愛好家の市民で結成する浜松餃子学会が中心となって、浜松餃子のファン獲得に努め、2011年に浜松市が初の日本一となって以来、毎年、注目を浴びてきました。

*1) 総務省家計調査：全国約9千世帯を対象とし、家計の収入・支出・貯蓄・負債等を毎月調査。

*2) 「ぎょうざ」：スーパー等で販売されている生餃子、焼餃子及び餃子のテイクアウト専門店のテイクアウトを含む。餃子の冷凍食品や中華料理店等のテイクアウトは含まない。

2025年結果

1位浜松市：4,046円 2位宇都宮市：3,575円 3位宮崎市：3,418円

過去10年間の総務省家計調査「ぎょうざ」年間支出金額トップ3(総務省年間データ)

| | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 |
|----|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 1位 | 浜松市 4,646円 | 浜松市 4,819円 | 宇都宮市 4,259円 | 浜松市 3,501円 | 宇都宮市 4,358円 | 浜松市 3,765円 | 宮崎市 4,184円 | 宮崎市 4,053円 | 浜松市 4,041円 | 浜松市 4,066円 |
| 2位 | 宇都宮市 3,981円 | 宇都宮市 4,650円 | 浜松市 3,580円 | 宇都宮市 3,241円 | 浜松市 3,504円 | 宇都宮市 3,694円 | 浜松市 3,728円 | 宇都宮市 3,763円 | 宮崎市 3,498円 | 宮崎市 3,517円 |
| 3位 | 宮崎市 2,711円 | 宮崎市 2,895円 | 堺市 3,092円 | 宮崎市 3,106円 | 京都市 2,787円 | 宮崎市 3,669円 | 宇都宮市 3,129円 | 浜松市 3,434円 | 宇都宮市 3,199円 | 宇都宮市 2,801円 |

【浜松市長コメント】

総務省家計調査の「ぎょうざ」品目において、**浜松市が3年連続で日本一を達成**することができました。

市民の皆様に愛され、浜松餃子は地域の食文化として根付いており、**市を代表するグルメのひとつ**となりました。

外食や冷凍品は含まれていない。

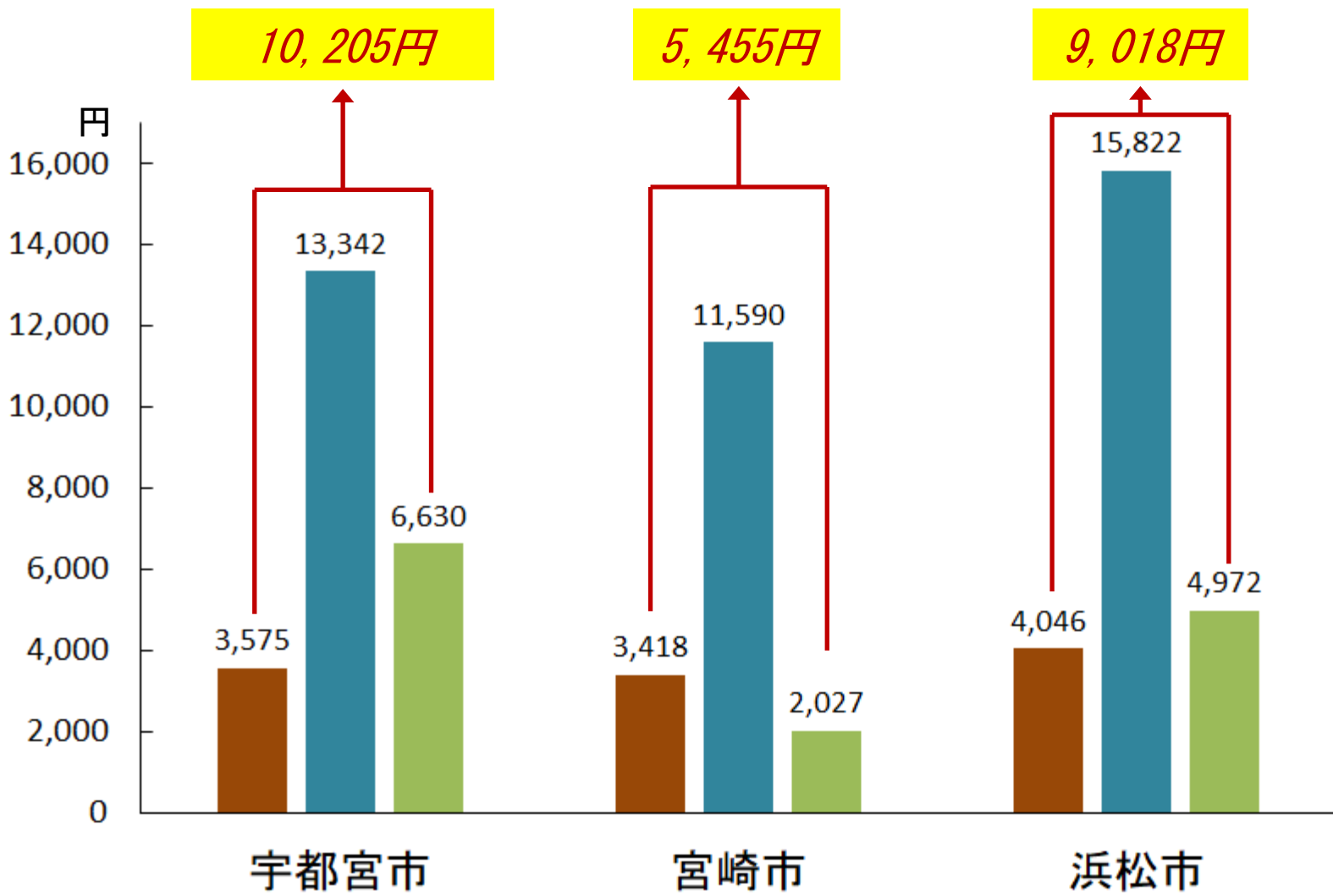


図 餃子等への支出金額 (2025年)

資料：総務省「家計調査 家計収支編」(2人以上の世帯)から作成
<https://www.stat.go.jp/data/kakei/2.html#new>

注：1) ぎょうざ(調理食品)には生を含むが、外食、冷凍食品、レトルト食品は含まない。
 2) 中華食(外食)には中華そばは含まない。



外食を含むと、
 やはり日本一は
 宇都宮市かも？

統計の見方、使い方(2) 「農家の若返り」？

農家初の「若返り」27都府県で 三重、イチゴ設備仲介で就農後押し

データで読む地域再生

データで読む地域再生 [+フォローする](#)

2026年2月20日 11:01 [会員限定記事]

保存済み

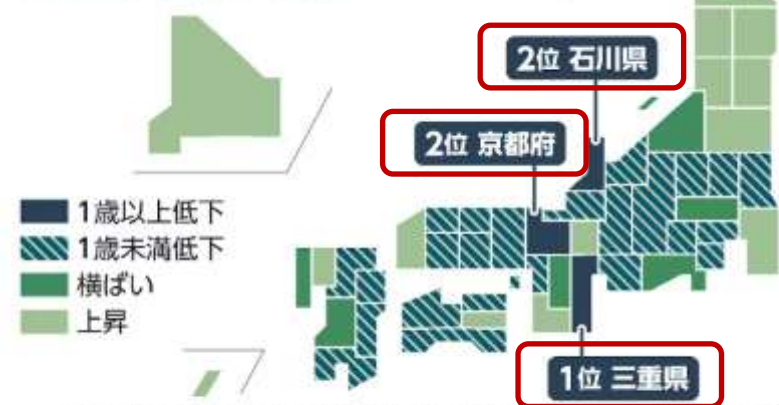
あA 印刷 メール n X Facebook 共有

Think! 多様な観点からニュースを考える

大泉一貴さんの投稿

農家の平均年齢が2025年、比較可能な1995年以降で初めて低下した。全国の6割近い27都府県で若返った。低下幅トップは三重県で、食味最高評価の「伊賀米」で知られる同県伊賀市では冬場に需要が大きいイチゴの生産で40～50歳代の農業従事者が増えた。自治体も就農を支援し次代に農業をつなぐ。

農家の平均年齢低下幅ランキング(2025年)

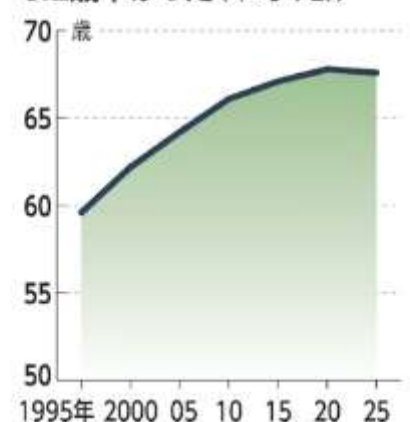


(注) 基幹的農業従事者の平均年齢を2020年時点と比較。出所は農林水産省

70代の農家が約4割 (年齢構成)



0.2歳下がった(平均年齢)



全国【平均年齢 67.8歳→67.6】

三重【71.0歳→69.8】

石川【70.2歳→61.9】

京都【70.2歳→69.1】

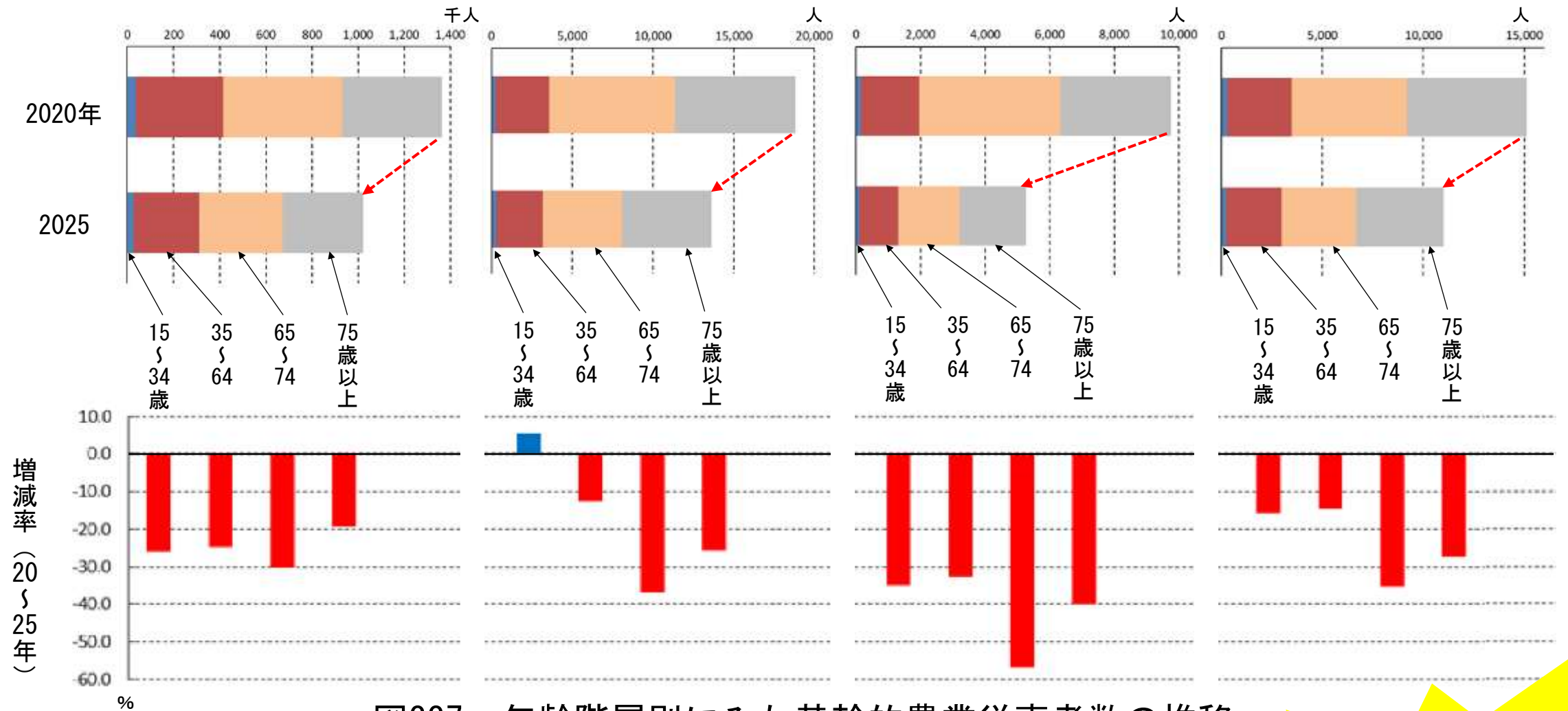


図337 年齢階層別に見た基幹的農業従事者数の推移

【図の番号は、拙メルマガの号数（以下、同様）】

資料：農林水産省「農林業センサス」（2020年、2025年）から作成
<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noucen/index.html#y>

注：1) 個人経営体の数値である。

2) 全国及び平均年齢が下がった（若返った）上位3府県について図示した

出典：ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」 <https://food-mileage.jp/>

平均年齢が低下したのは、
 高齢者が大きく減少
 したためでは？

基幹的
農業従事者数

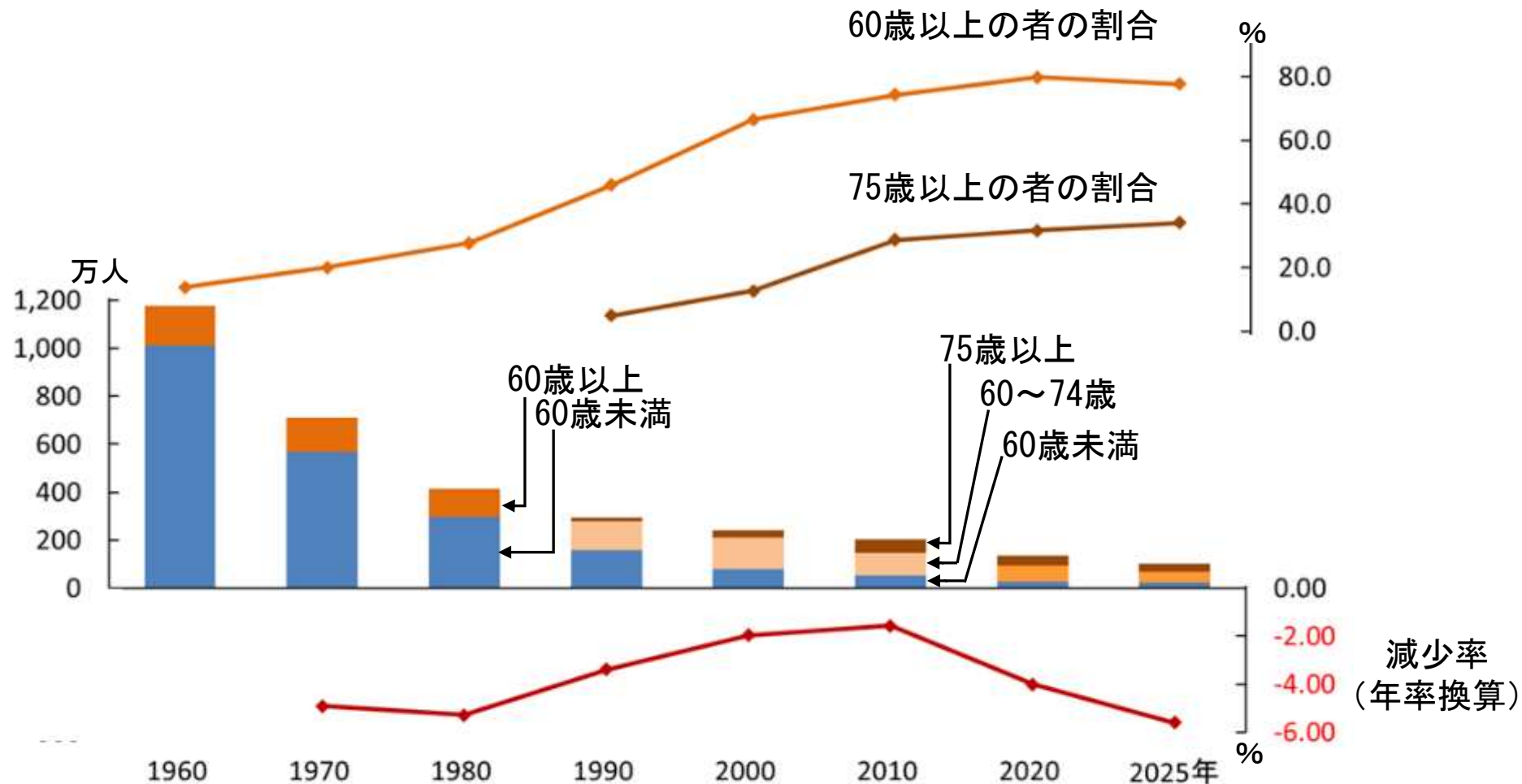


図330 基幹的農業従事者数の推移

資料：農林水産省「農林業センサス」累年統計表等から作成。

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noucen/index.html>

- 注：1) 基幹的農業従事者とは、自営農業を主な仕事としている世帯員のことである。
- 2) 1980～2010年は販売農家、2020年以降は個別経営体の数値であるなど、厳密には連続しない。
- 3) 各年2月1日現在の数値である。

出典：ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」<https://food-mileage.jp/>

2025年農林業センサス結果の概要(確定値) (令和7年2月1日現在)

農業経営体の減少が続く中、法人経営体は5年前に比べ10.1%の増加。
1経営体当たりの経営耕地面積は3.6haとなり、0.5haの増加。
また、経営耕地面積20ha以上の農業経営体の面積シェアが、
全体の約5割を占めるなど、**規模拡大が進展**。

【調査結果の概要】

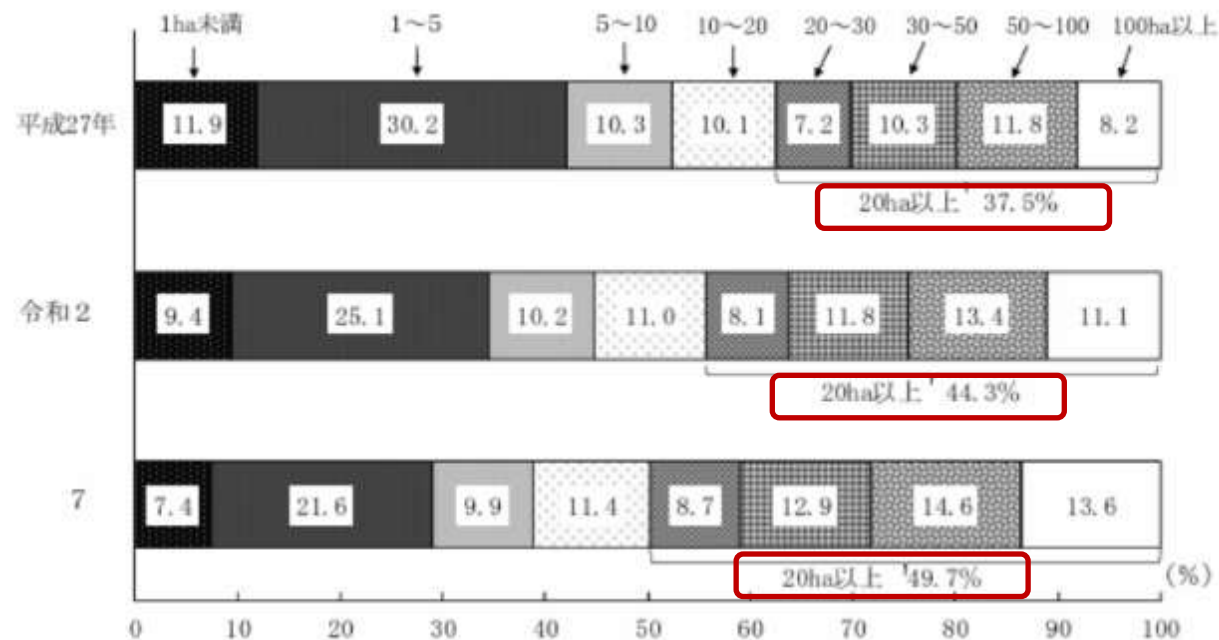
I 農林業経営体調査結果

2 農業経営体

(4) 経営耕地面積規模別の経営耕地面積 (統計表I2(4)参照)

農業経営体の経営耕地面積を規模別にみると、20ha以上の農業経営体の経営耕地面積が全体の49.7%を占め、5年前に比べて5.4ポイント上昇した。

図5 経営耕地面積規模別の経営耕地面積割合(全国)



20ha以上の農業経営体の面積シェア

2015年 : 37.5% → 2020年 : 44.3% → 2025年 : 49.7%

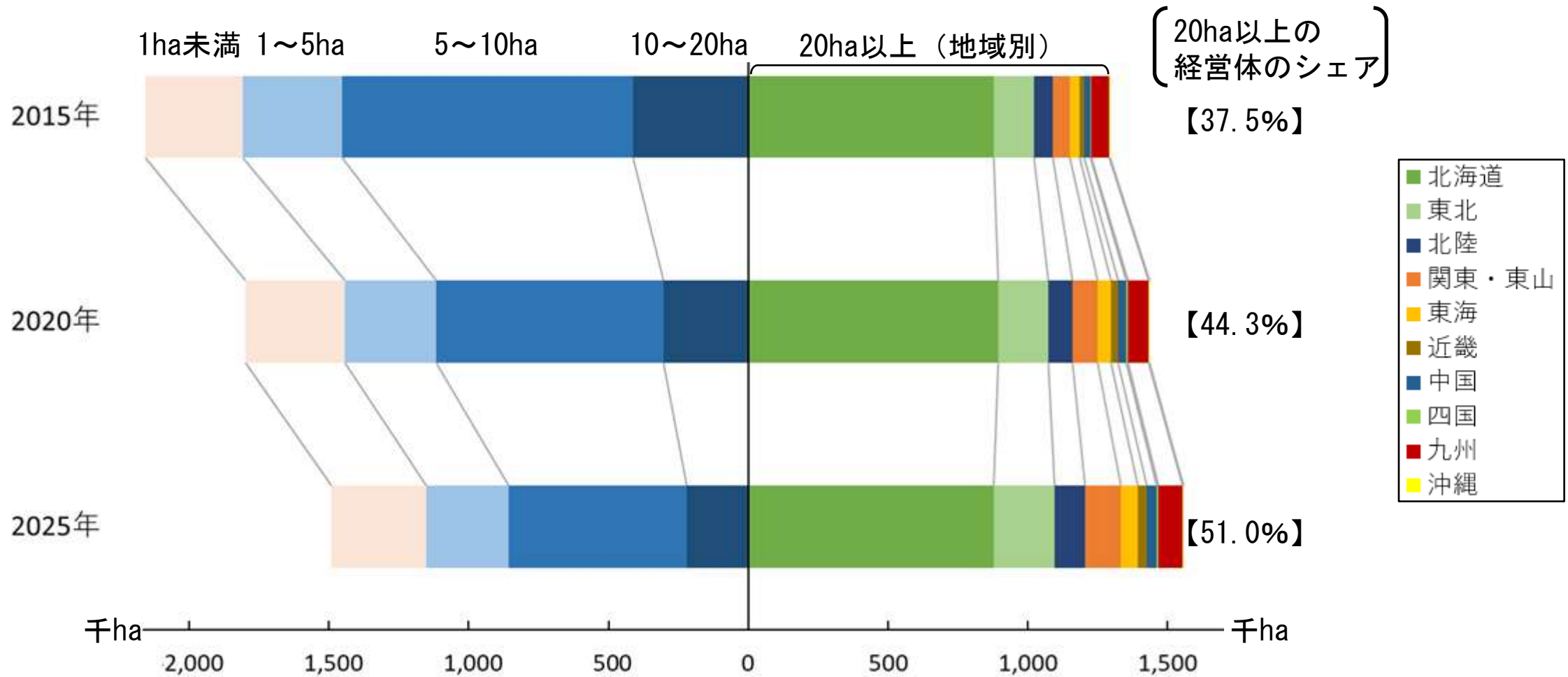


図332 経営耕地面積規模別の経営耕地面積の推移

資料：農林水産省「農林業センサス」から作成。

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noucen/index.html>

注：各年2月1日現在の数値である。

出典：ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」<https://food-mileage.jp/>

大規模層の面積シェアが上昇したのは、
小規模層を含む全体の面積が
大きく減少したためでは？

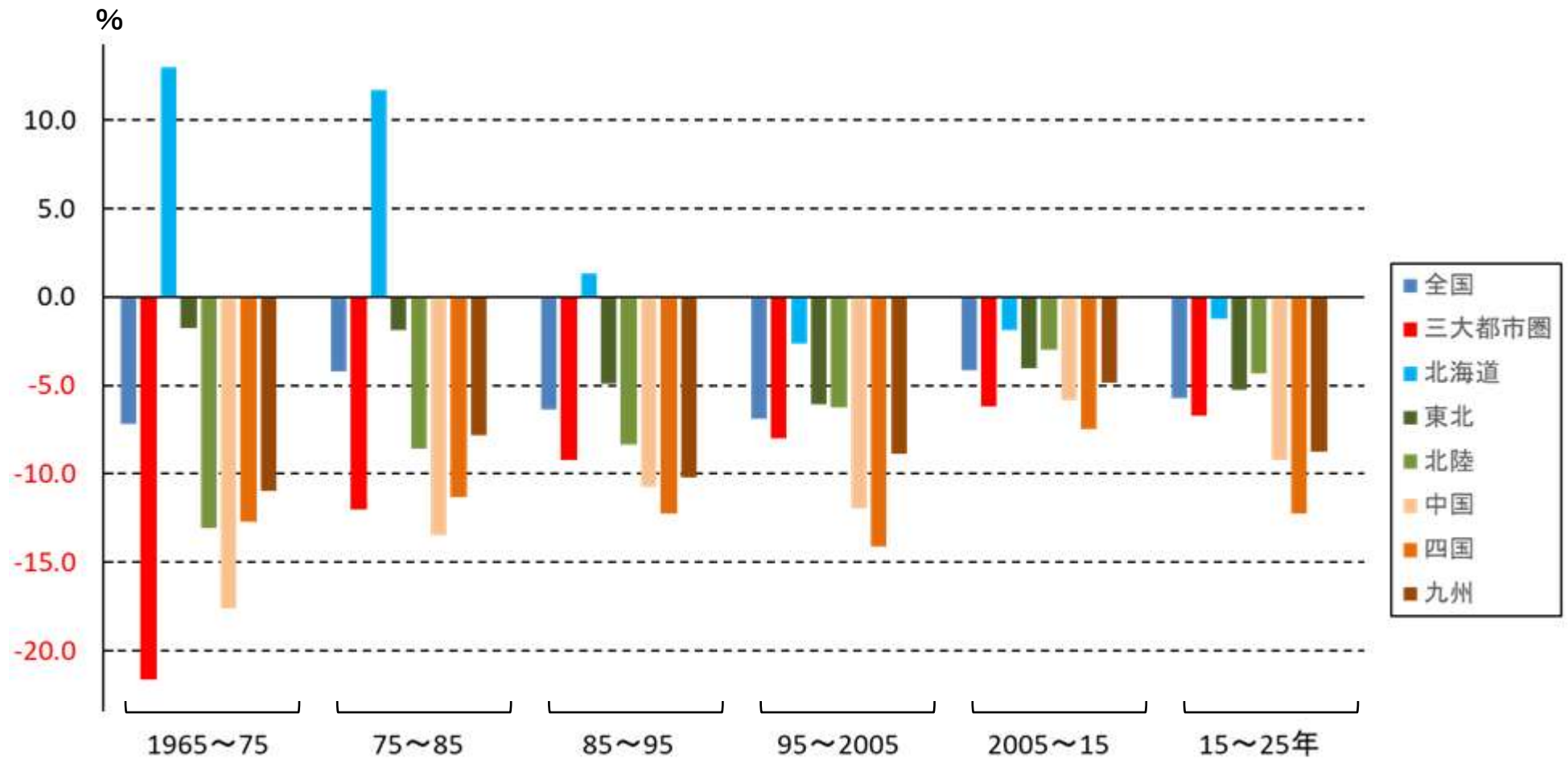


図334 地域別にみた耕地面積の増減率

資料：農林水産省「作物統計（面積調査）」から作成。

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/index.html#l>

注：1) 田畑計の数値である。

2) 三大都市圏とは、埼玉、千葉、東京、神奈川、岐阜、愛知、三重、京都、大阪、兵庫の各府県である。

出典：ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」<https://food-mileage.jp/>

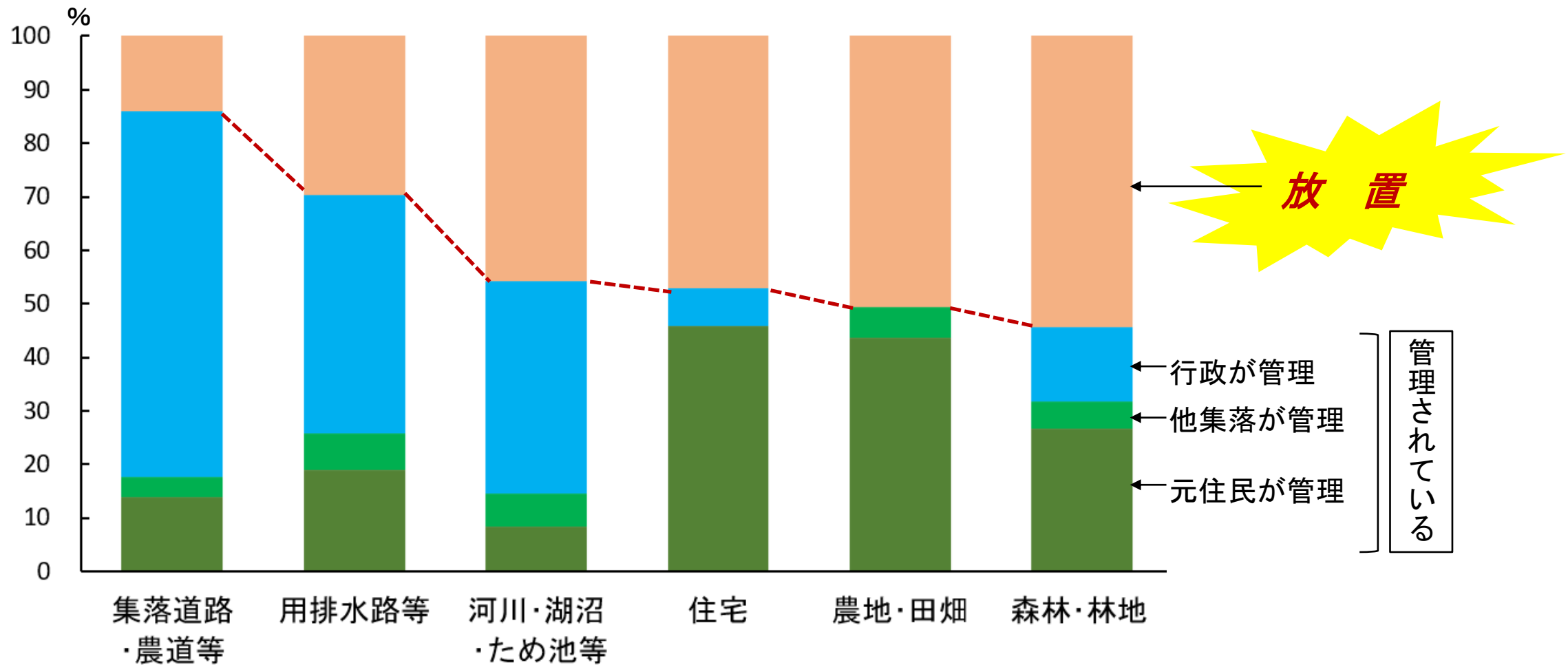


図290 消滅集落跡地の主な地域資源の管理状況

資料：総務省「過疎地域等における集落の状況に関する現況把握調査（最終報告）」（2020年3月）から作成。

https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01gyosei10_02000066.html

注：1) 全国の過疎地域等1,045市町村を対象とした調査で、回収率は100%である。

2) 2015年以降に全国96市町村で164集落が消滅している。本図は、消滅した集落跡地における主な地域資源の管理状況を示したもので、「該当なし」及び「無回答」を除いた合計から割合を算出している。

出典：ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」<https://food-mileage.jp/>

#こちら特報部 #社会 #港区 #木原育子記者

「時給10円」の衝撃…農家は「令和の百姓一揆」を決意した 作る側も買う側も 苦しい「価格」、どう解決？

2025年2月22日 06時00分 有料会員限定記事

日本の食を守るため、農政は転換を。

「令和の百姓一揆」と題した運動が始動した。農家の高齢化と離農が進む中、農家への所得補償や消費者が安心してコメや野菜を入手できる仕組み、食料自給率の向上を求め、3月末に東京・青山で30台規模のトラクター行進を企画する。立ち上がった生産者の危機感とは。(木原育子、太田理英子)

◆「もう限界だ」

「水田農業の時給は10円だ！ 基本的人権なんてあったもんじゃない！」

「ずっと放置され続けた。こんな日本でいいのか！」

18日、国会内で開かれた集会。東北や関東の各地から集まった農家の檣（げき）が飛んだ。



公益財団法人
民間放送教育協会

時給10円という現実 ～消えゆく農民～



令和の百姓一揆（2025年3月）チラシより

「かろうじて農家も「時給10円」(*)程度で頑張ってきましたが、この窮状を多くの方に知って頂き・・・」

(*)農水省 営農類型経営統計 稲作2022年
年により10円～90円台などあり。

(中田コメント)

「ショッキングで分かりやすい数値（時給10円）を強調し過ぎることは、データに詳しい人に足元をすくわれかねないのではないかと危惧するところです」 31

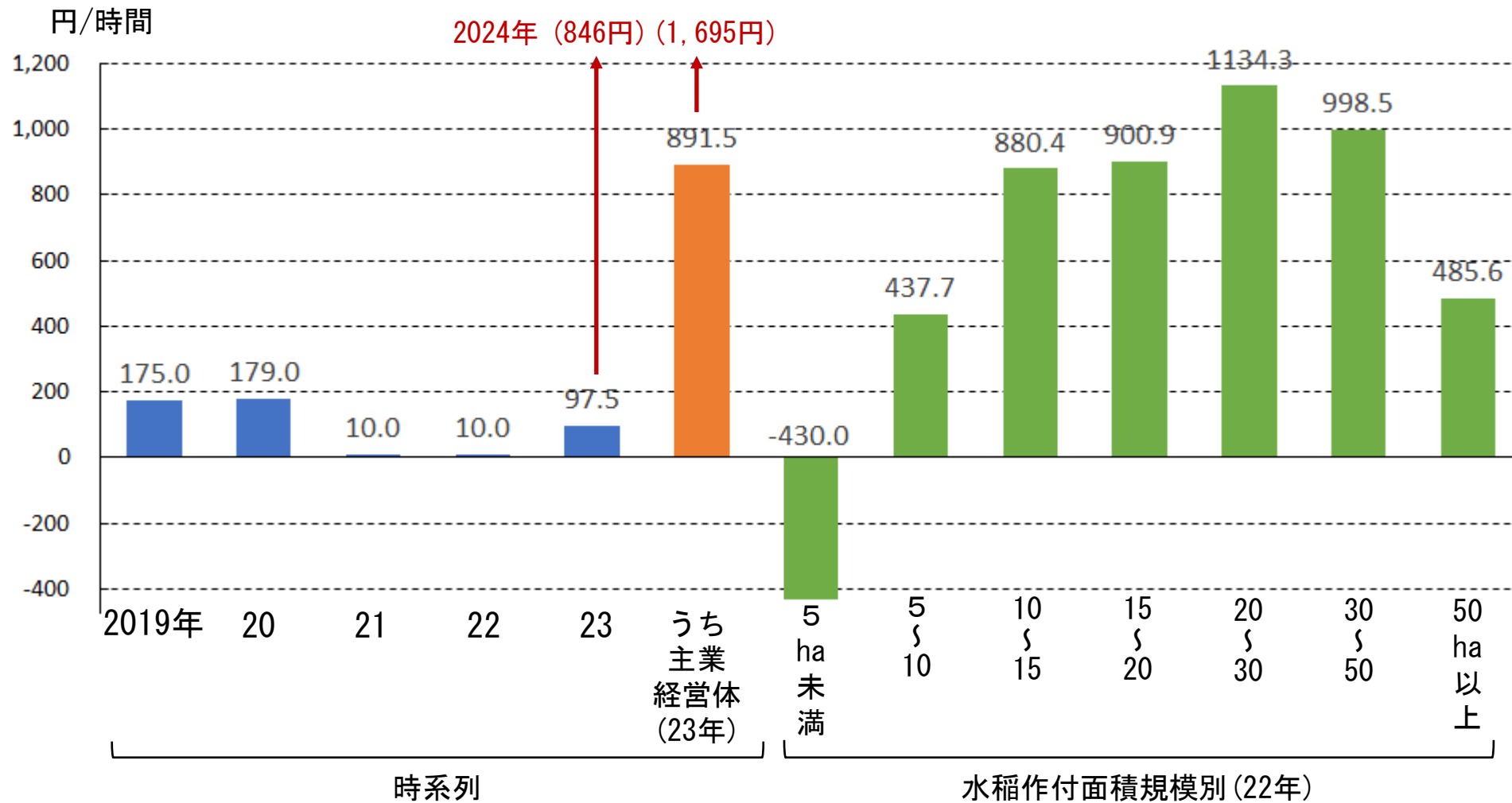


図309 「いわゆる時給」について（水田作、全農業経営体）

資料：農林水産省「営農類型別経営統計」から作成。

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noukei/einou/index.html>

注：1) 主業経営体とは、農業所得が主で自営農業に60日以上従事している65歳未満の者がいる個人経営体である。

2) 「いわゆる時給」とは農業所得を自営農業労働時間で除した数値であり、以下の点で一般的な時給とは概念が異なる。

- ・自営農業の労働時間には**雇用者の労働時間を含んでいるが、雇用労賃は経費**として農業所得は含まれていないこと
- ・法人経営体の**有給役員に対する給料、賞与、福利厚生費も経費**として農業所得には含まれていないこと

出典：ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」 <https://food-mileage.jp/>

トップ

社会

経済

政治

国際

スポーツ

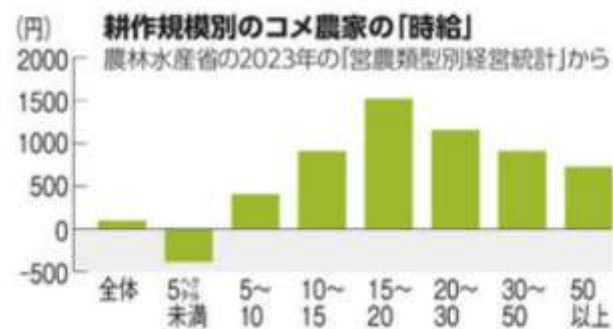
オピニオン

IT・科学

朝日新聞 > 記事

コメ農家は時給10円？ 収入、換算方法で実態とズレも

2025年7月18日 5時00分 有料記事



耕作規模別のコメ農家の「時給」

高騰する米価対策が参院選の争点となる中、「時給10円」とも言われたコメ農家の収入にも注目が集まっている。最低賃金にも満たない低水準は、なぜ生じるのか。

時給10円は、農林水産省の「営農類型別経営統計」をもとにした数字だ。田んぼでコメなどを育てる農家や法人が1年間に得た農業所得を、1年間の労働時間

この記事は **有料記事** です。残り**800文字** 有料会員になると続きをお読みいただけます。

今すぐ登録 (1カ月間無料)

ログインする

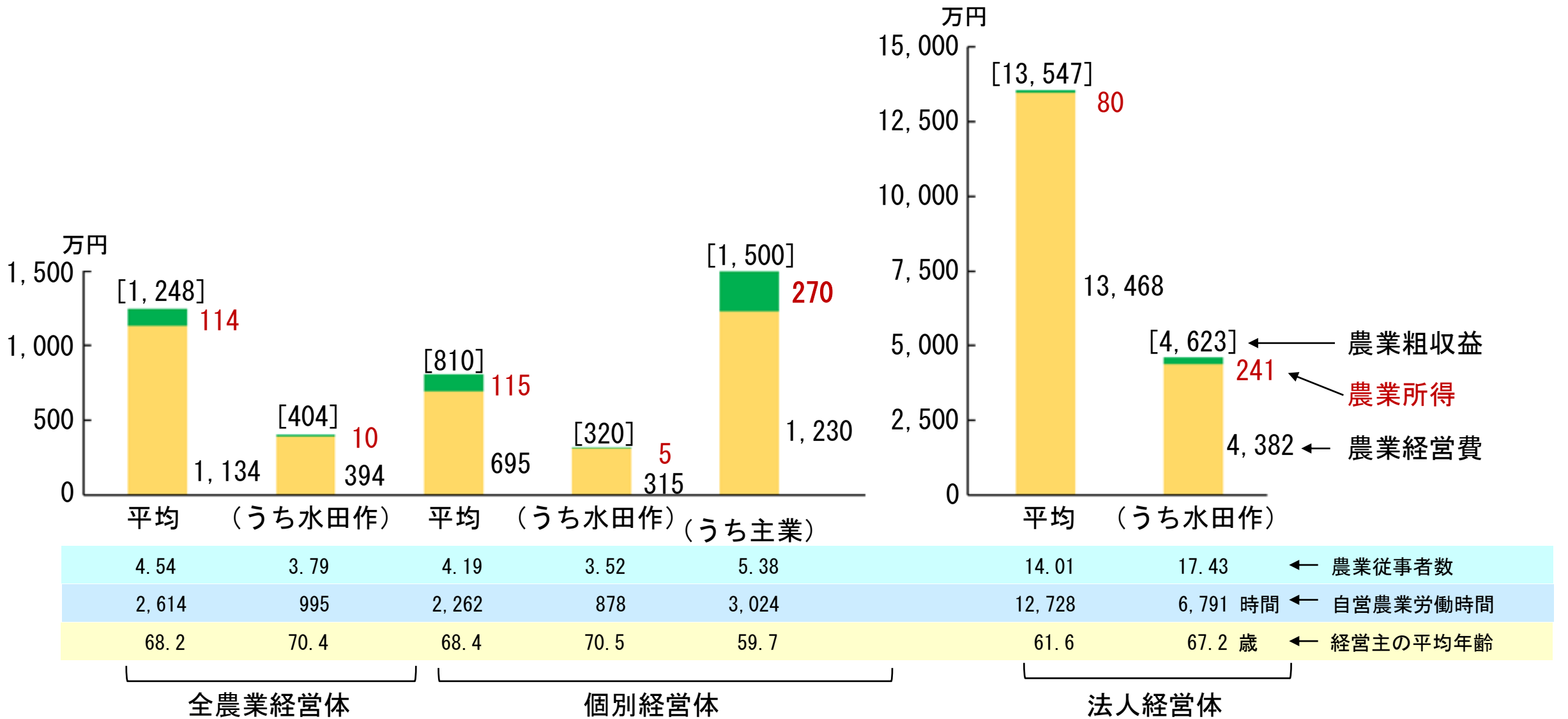


図325 経営タイプ別にみた農業経営収支（2023年）

資料：農林水産省「営農類型別農業経営統計」から作成。

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noukei/einou/index.html>

注：主業経営体とは、個人経営体のうち、農業所得が主で、自営農業に60日以上従事している65歳未満の者がいる経営体をいう。

出典：ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」<https://food-mileage.jp/>

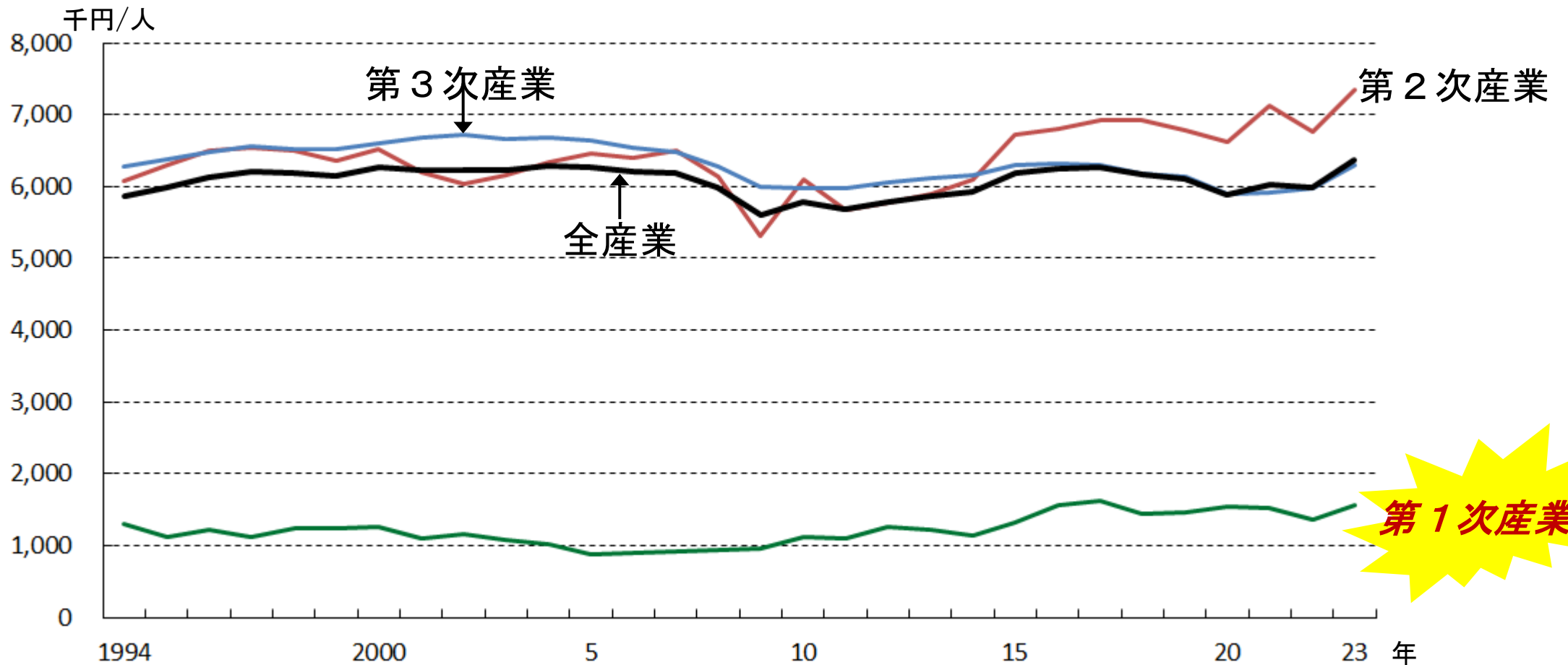


図310 就業者一人当たり所得等の産業間比較

資料：内閣府「国民経済計算(GDP統計)」(フロー編付表(2)及び(3))から作成。

https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kakuhou/files/2023/2023_kaku_top.html

注：1) 「所得等」とは国内純生産のことで、以下の式から求められる。

国内純生産＝国内総生産(国内産出額－中間投入)－固定資本減耗

2) 国内純生産は雇用者報酬、営業余剰・混合所得(注：事業主の労働報酬等)、生産・輸入品に課される税(控除)補助金からなる。

3) 第1次産業は農林水産業、第2次は工業、製造業及び建設業、第3次はサービス業等である。

出典：ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」 <https://food-mileage.jp/>

「令和の百姓一揆」 2025年の模様



自作の幟



榑田みどりさん
(農業ジャーナリスト) も
手作りのプラカードを持って
行進



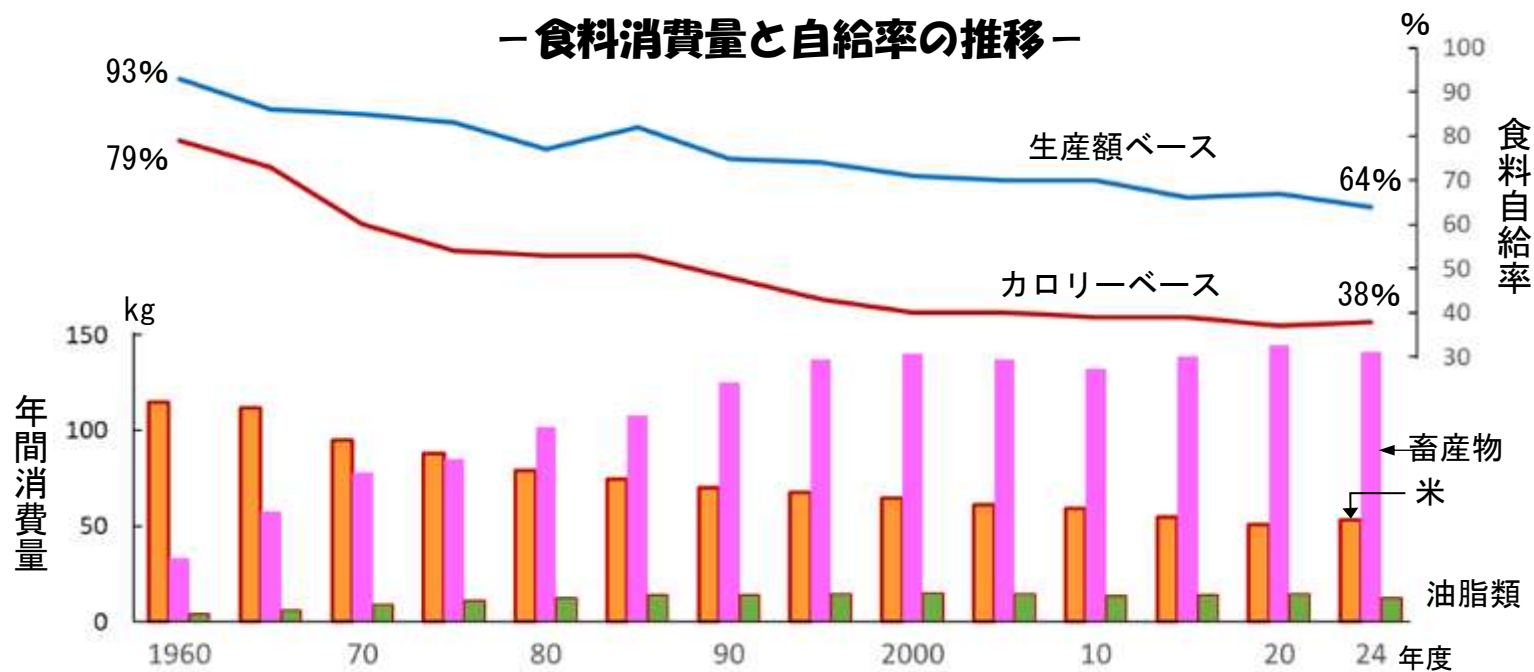
鈴木宣弘先生
(東京大学大学院) と




なぜ農業問題は都市住民(消費者)の問題なのか

2026年版、中田作成

1 食料自給率低下の原因は、食料消費(食の選択)の激変

－食料消費量と自給率の推移－



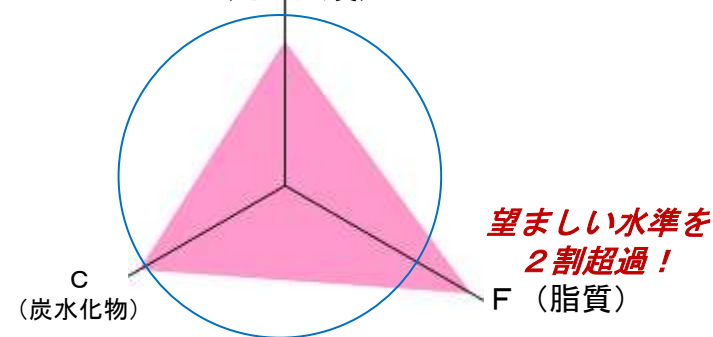
| 1人1年当たり供給純食料 | | [1960年度] | → | [2024年度] |
|---|-----|----------|---|--------------|
|  | 米 | 114.9 kg | → | 46.5 (0.46倍) |
|  | 畜産物 | 33.7 kg | → | 141.2 (4.2倍) |
|  | 油脂類 | 4.3 kg | → | 12.8 (3.0倍) |

資料：農林水産省「食料需給表」、厚生労働省「日本人の食事摂取基準(2025年版)」から作成。
<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
<https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001396865.pdf>



－健康面でのリスクも－

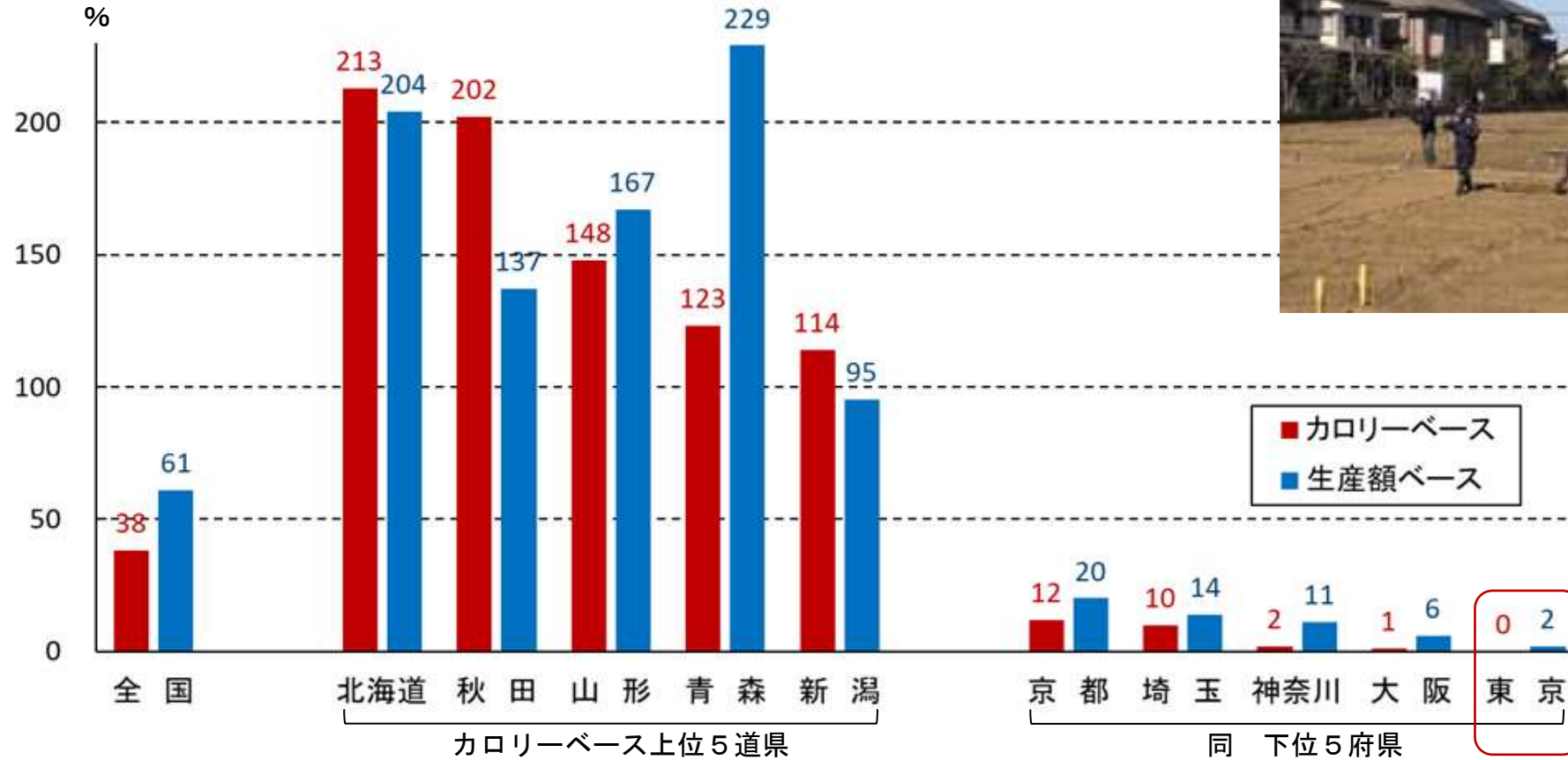
P (たんぱく質)



望ましい水準を
2割超過!

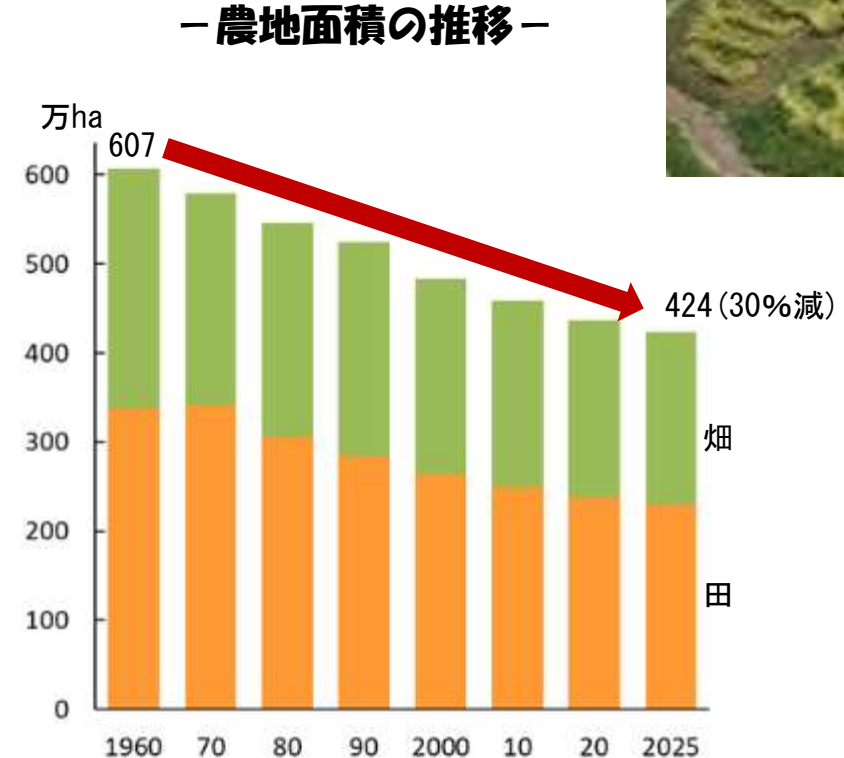
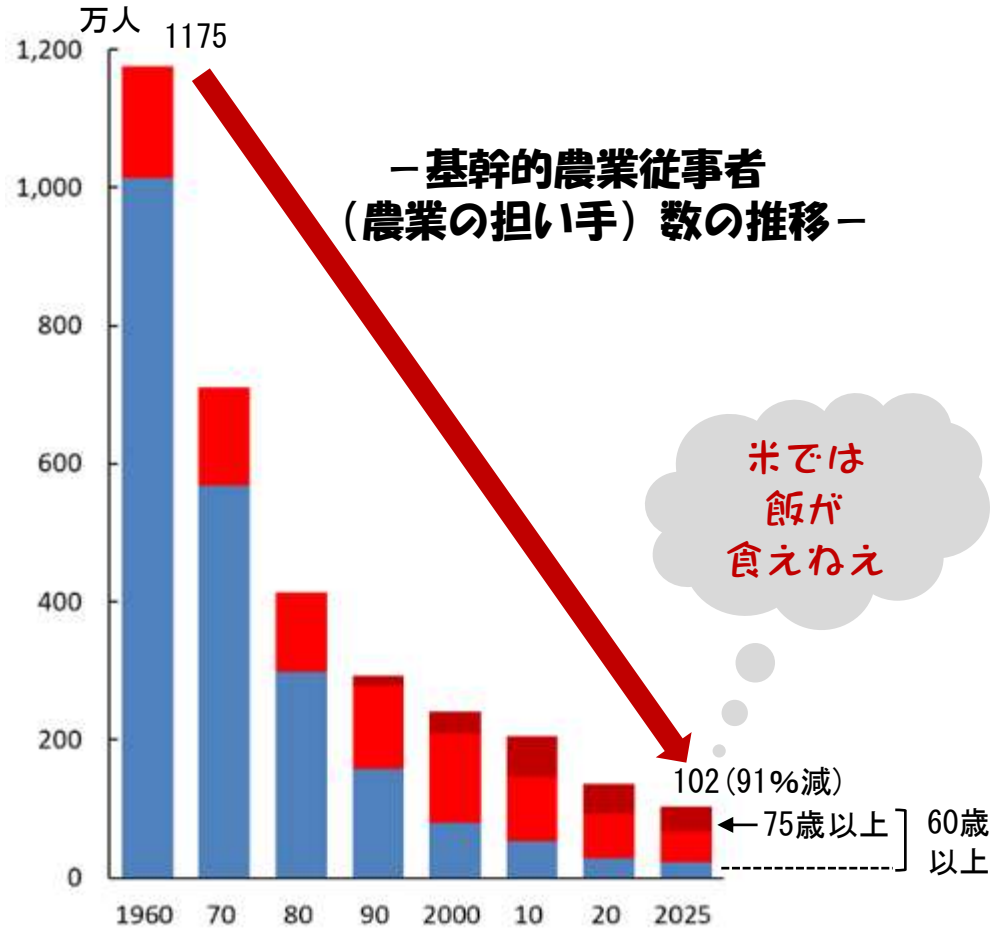
2 最初に飢えるのは都市住民？

— 都道府県別の食料自給率（2023年度 概算） —



資料：農林水産省「都道府県別食料自給率」から作成。
https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/zikyu_10.html

3 衰退する日本の農業



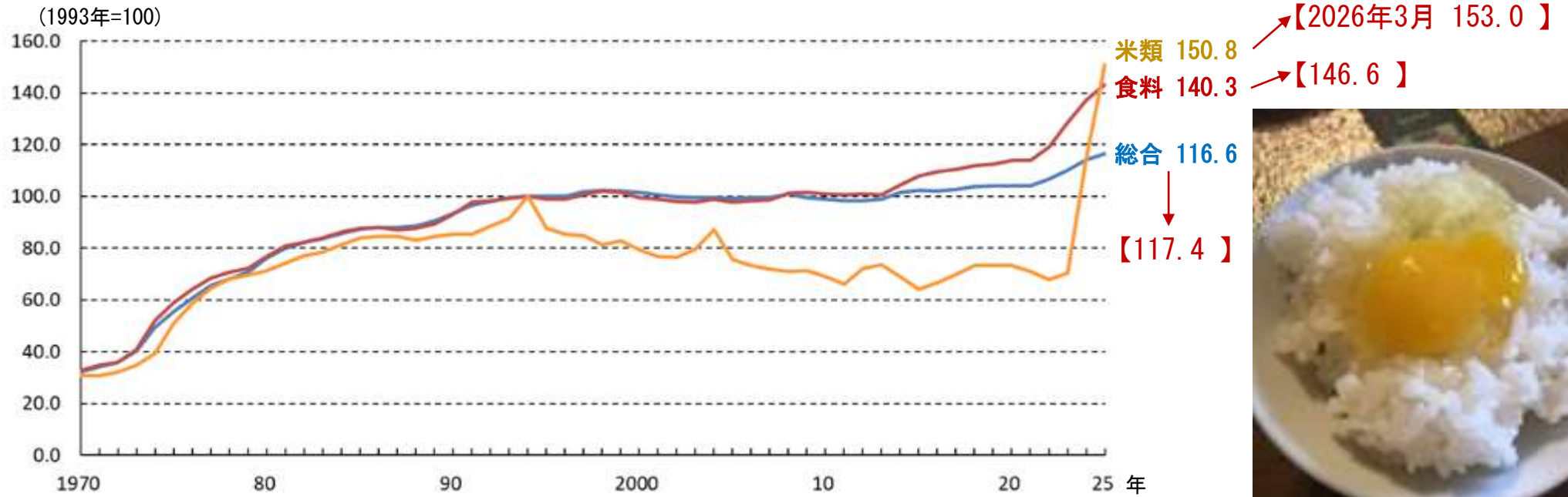
1人の農業の担い手が支えている消費者
[1960年] 約8人 → [2025年] 約121人 (15倍)

人口1人当たり農地面積
[1960年] 約197坪 → [2025年] 約104坪 (47%減)

資料：農林水産省「農林業センサス」「作物統計」から作成。
<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noucen/index.html>
<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/index.html>

4 米価高騰？ = これまで長期間、低迷していた

— 消費者物価指数の推移 —



資料：総務省「消費者物価指数(時系列データ)」から作成。 <https://www.stat.go.jp/data/cpi/1.html>
注：1993年を100とした数値に換算(単純計算)した数値である。

5 食(消費者、都市)と農(生産者、農村)の間の距離の拡大

都市の消費者にとって、食べものは単なる「商品」に
→食べものを大切にする心、生産者や産地、自然環境に対する畏敬の念の喪失
食品ロス量は464万トン(2023年度。ちなみに米の収穫量は721万トン)

私たちにできること：農を自分ゴト、身近なものに
(例えばベランダで野菜を作ってみる、取り寄せてみる、産地・生産者を訪ねる)

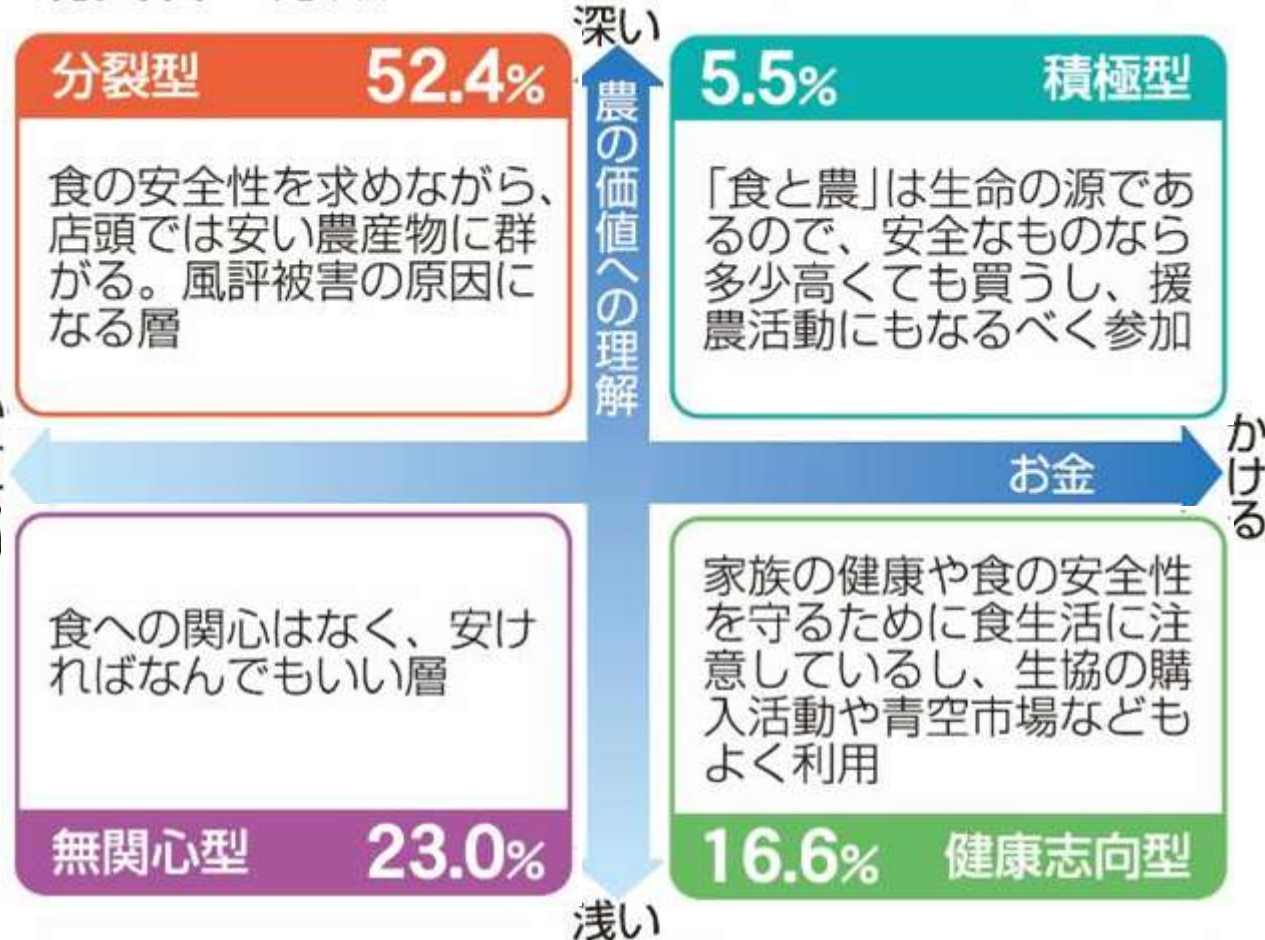
2026.3/25 作成：中田哲也(私も一人の消費者です。)
ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」<https://food-mileage.jp/>



消費者に期待できるか

消費者の分類

(無回答があるため、合計は100%にならない)



※徳野貞雄教授監修:2003年「福岡市民の食生活に関するアンケート」を参考に作成

(佐藤 弘氏 (元西日本新聞社、小農学会事務局) から提供)

エシカル(Ethical:倫理的)消費

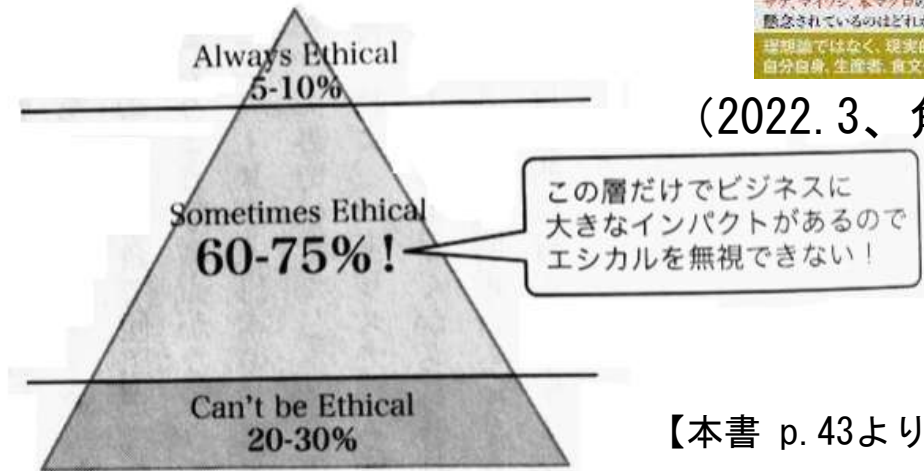
日本は利己的(安全)

⇔ヨーロッパは利他的(人権、環境)

先進国・イギリスの取組み

エシカルを支えるのは**普通の人**

**「ときどきエシカル」が
パワーになる!**



(2022. 3、角川新書)

【本書 p. 43より】

倫理的な購買に関して消費者は3つのタイプに分けることができ、
 “Always Ethical (アクティブな消費者)”が5-10%、
 “Sometimes Ethical (それほどアクティブでない消費者)”が60-75%、
 “Can't be Ethical”が20-30%と分布されてるといふ。

エシカルを支えるのは普通の人



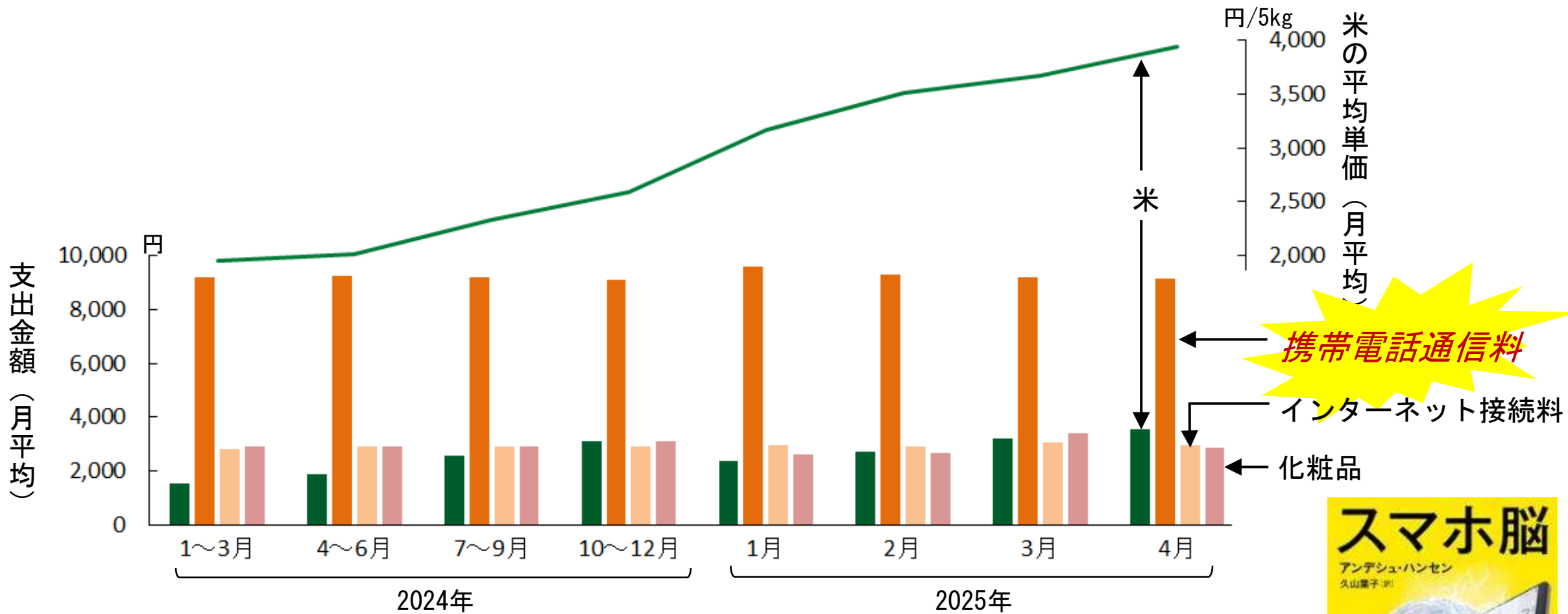


図318 家計の支出金額の推移（月平均）

資料：総務省「家計調査」から作成。

<https://www.stat.go.jp/data/kakei/>

注：1) 全国の農林漁家世帯を含む2人以上世帯の数値である。

2) 化粧品とは整髪・養毛剤、化粧クリーム、化粧水、乳液、ファンデーション、口紅、ヘアカラーリング剤及び他の化粧品である。

出典：フード・マイレージ資料室 <https://food-mileage.jp/>



いま、フード・マイレージをヒントに 改めて考える私たちの食のこと



食（食卓、消費者）と**農**（産地、生産者）の間の**距離の拡大**

⇒消費者にとって、食べものは単なる「**商品**」に。

食べものを**大切**にし、生産者を**敬い**、自然や環境を**畏敬する**気持ちを喪失。

食と農の間の距離を再び縮める：**「顔の見える関係づくり」**（**信頼関係の醸成**）が必要
（生産の現場を訪ねる、生産者と交流する、取り寄せてみる、
自分で野菜を育ててみる等）



フード・マイレージ（食と農の間の距離）を意識することで

○ その食べものが、どこで、誰によって、どのように
作られたかを想像する**よすが**に。

○ 食べものをめぐる**伝統、歴史、文化、風土への気づき**。 故・金子美登さん（埼玉・小川町、2020. 9/19） 44

「食と農の未来フォーラム」について



写真:野生キンラン（東京・東村山市）、堰浚いボランティア（福島・喜多方市）、PresentTree植樹イベント（山梨・笛吹市）

1 開催の趣旨と目的開催の趣旨

(1) 現在、食と農は様々な深刻な課題に直面。

例：食料自給率の低迷、担い手・農地などの急速な減少、農村の過疎化と「限界集落」化、栄養バランスの崩れと食生活の乱れ、膨大な食品ロス 等

(2) これらの課題の多くは、基本的に「食（食卓、消費者、都市）と農（産地、生産者、農村）の間の距離」が離れてしまっていることに起因。

多くの都市の消費者にとって、食べものは、お金さえ出せばいつでもいくらでも買える単なる「商品」に。

どこで、誰によって、どのように生産されて食卓まで運ばれてきているか想像できず。

食はいのちの源。食べものを大切に思う心、食の生産に携わっている方たちへの敬意、自然への畏敬の念を取り戻す必要。

(3) 本フォーラムは、都市の一般市民（消費者）の方々を主な対象として、食と農の現場の実情と課題を身近に感じ、自主的な行動変容につなげて頂くことを期待して、月1回程度、食や農の「現場」に精通しているゲストをお招きして、中田個人（ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」）の主催により開催。

食や農の現状に興味・関心をお持ち方など、幅広い皆様の参加をお待ちしています。

2 開催実績



【第1回】2025年6月30日（月）午後7時～9時、オンライン

開催趣旨等について中田から説明と意見交換（概要）<https://food-mileage.jp/2025/07/04/blog-587/>



【第2回】7月23日（水）午後7時～9時、オンライン

大友 治さん「米は田んぼだけで作られるのではない 稲作が生産するのは米だけではない」

（概要）<https://food-mileage.jp/2025/07/27/blog-592/>

【第3回】8月26日（火）午後7時～9時、オンライン

鈴木純子さん「原発被災地でオーガニックコットンを育て「続け」ること」

（概要）<https://food-mileage.jp/2025/08/30/blog-598/>



【第4回】9月20日（土）午後7時～9時、オンライン

榊田みどりさん「都市住民こそ他人事じゃない！ 私たちの食べものは大丈夫？」

（概要）<https://food-mileage.jp/2025/09/25/blog-602/>

【第5回】10月27日（月）午後7時～9時、オンライン **佐久間 建さん、藤崎美智子さん**

「ハンセン病問題を基礎から学び、紙芝居『わたしの命の物語』から生きやすい社会について考える」

（概要）<https://food-mileage.jp/2025/11/02/blog-608/>



【第6回】11月25日（火）午後7時～9時、於 パレスチナ料理店・Bisan(東京・十条)

高橋美香さん 「パレスチナの家族の今」

（概要）<https://food-mileage.jp/2025/11/28/blog-610/>

【第7回】2026年1月31日（月）午後7時～9時、オンライン

富澤太郎さん 「限界を迎える限界集落ー消えつつある自給自足の農と里山暮らし」

（概要）<https://food-mileage.jp/2026/02/06/blog-622/>



【第8回】2月17日（月）午後7時～9時、オンライン

釘島浩子さん 「日本人ファースト」って？『武士の娘』から考える」

（概要）<https://food-mileage.jp/2026/02/24/blog-627/>

【第9回(本日)】3月28日（土）午後6時30分～9時、於 トレジオンポート(東京・赤坂)、オンライン併用

菅野芳秀さん 「令和の百姓一揆2026 食といのちの自給圏を創り出すためには」

（概要）<https://food-mileage.jp/2026/02/24/blog-627/>



全村避難から16年目の飯舘村～原発事故からの「復興」のリアル（仮題）

ゲスト：行友 弥（ゆきとも・わたる）さん



飯舘村のエコハウス（2024年11月3日、中田撮影）

東京電力・福島第一原子力発電所の事故から16年目。

原発事故により現在も2万人以上が避難を余儀なくされ、300平方km以上の国土が帰還困難とされています。そのようななか、昨（2025）年2月に改訂された国の「エネルギー基本計画」においては原子力発電についての方針が大きく転換されました。すなわち、従来の「可能な限り依存度を低減する」から、生成AIの普及による電力需要の拡大が見込まれること等を背景に、再生可能エネルギーとともに「最大限活用する」こととされたのです。

そして現在、総選挙で圧倒的な支持を得た政権与党は、**原発の再稼働どころか新增設にまで踏み込みつつあり**、この方向は、現下の中東における戦争とエネルギー危機によりさらに拍車がかかる可能性があります。

果たして電力の最大の消費者である私たち（東京都民など都市住民）は、原発事故被災地の現状をどこまで理解しているのでしょうか。意識しようとしているのでしょうか。

今回は、**行友 弥（ゆきとも・わたる）さん**をゲストにお迎えし、原発事故により一時全村避難を強いられた福島・飯舘村の「復興」の現状と課題、原発被災地に限らない農業・農村の現状等について、ご自身の体験に基づいて具体的な問題提起を頂き、参加者全員で意見交換したいと思います。

北海道出身。毎日新聞の記者として最初に福島に赴任。農業分野を中心に全国で取材を続けられ、毎日新聞早期退職後は農林中金総合研究所勤務を経て、地域おこし協力隊の隊員として飯舘村に移住。

この間、農政ジャーナリストの会会長等も歴任。

(1) 日時 : 2026年5月28日（木）19時～21時

(2) 開催方法等 : オンライン（zoomを利用）、参加費1000円

(3) 申込み

以下（又は右のQRコード）からお申し込みください。

<https://peatix.com/event/4994630/>



なお、Peatixを使用されない方は以下から連絡下さい。別途、対応させていただきます。

拙ウェブサイトより : <https://food-mileage.jp/contact/>

メール : tetsuya.nakata913@gmail.com

（申し込んで下さった方には、後日、アーカイブを配信予定）

(4) 募集定員 : 80名（先着順）

| | | |
|--------|----------------|----------|
| (5) 内容 | : 主催者による趣旨等の説明 | 10分程度 |
| | : ゲストによるお話 | 1時間20分程度 |
| | : 質疑応答・意見交換 | 30分程度 |

